

杏林

第15号

JEC



2002

所感	学部長 藤井 明	2
所感	杏会会長 吉澤正紹	3
杏会総会		4
杏壇 中高齢を健やかに過ごす	学長 長澤俊彦	6
新任教員紹介		13
ゼミナール紹介		14
学生委員会	滝本道生	26
教務委員会からご父母の方へ	國松 昭	27
教職課程について	諏訪内敬司	28
外国語学部のホームページをご覧ください	今泉喜一	29
入試委員会より	赤井孝雄	30
就職と「現代日本社会特論」のこと	小山三郎	31
「インターンシップ・1」について	岩崎公生	32
広報委員会から	金田一秀穂	33
学長と学生との懇談会	青木栄一	34
キャンパス風景		36
国際交流センターの活動	五十嵐一夫	38
黒龍江省での研究と「仕事」の日々	本田弘之	40
イギリスの仏滅	楠家重敏	41
19年ぶりの中国	金田一秀穂	43
河北大学での日本語教育実習	江田すみれ	45
日本の美、歌舞伎の美	朱 江	47
がんばる卒業生	盧 載鎮	48
台湾に留学して	安藤 勲	50
父母の声	内藤俊朗	51

JEC の由来

「ジェック」と読み、Japanese、English、そして Chinese の各々の頭文字を発音し易く組み合わせたもの。それは、常に初心に立ち返り、教育と研究に全力を傾ける気持ちを意図する。



所感

学部長 藤井 明

中国では正月になると出入口におめでたい言葉を書いて貼り出すのが習慣となっている。特にこの時期になると赤紙に黒筆で書かれた貼り紙が人々の目をひくようになる。その貼り紙の中で多く見られる言葉に、“恭賀発財”がある。“恭賀発財”には富を貯えることを願うとか、皆が豊かになることを希望する、などという意味が込められているらしい。これは中国独特の言葉であり、おそらく日本では正月に富を貯えることを願うなどという習慣はないと思う。それにしても文字や言葉にはつきりと表現するのは、富を貯えることが中国の社会通念の中では“善”であるからであろう。日本では、江戸時代頃からのものであろうが、あまり金のことを表面きつて口にするのを“善”としない。

我々は中国人をよく利に敏いといって蔑視することがある。あちらの国では大手を振って歩く言葉も、こちらの国では目陰を歩く言葉になっていることはよくある。国際理解とはこの辺の理解からはじめたいものであると思う。



所感

杏会会長 吉澤 正紹

長女が、外国学部英米語学科にお世話になって四年目になりました。この間、何度か八王子のキャンパスを訪れ、杏林大学のホームページを読み、あるいは「JEC」、「私たちは外国語学部です」、「これが私の生きる道」、「考える若者」などの小冊子に触れているうち、少しずつ杏林大学外国語学部を知ることが出来てきたような気になっています。

三年前には、手入れの行き届いた樹木に囲まれた校舎、学生へのコンピュータの普及、留学等に便利なセメスター制度の導入などが目を引く、アット・ホームな学部であるとの印象を持ちました。さらに昨年からは、一学科五つの専門科目群に分けて、教育を受け、研究を進める創造的な学部へと変容したことを知りました。しかしながら何にもまして、杏林大学外国語学部の大きな特徴は、質の高い日本語・英語教育と共に、他大学に比較して中国語の教育が充実していることであると考えます。

話が少し中断しますが、世界の目がどこに向いているかと言えば、世界の巨像と言われる中国でしょう。中国がどのような国であるかは、理解することがたいへん難しく感じます。しかし単に人口が多いだけでなく、急速な近代化、外貨準備高の急上昇と同時に、世界有数のコンピュータ用ソフトウェア造りの国になっていることは日本にとって大きな脅威です。何故なら、日本は頭脳で国際競争に勝つていくとしていた筈からです。日本経済の閉塞感、バブル後遺症による景気低迷だけでなく、アジアで中国に頭脳でも負けそうであるという潜在的、否、現実的な意識に根ざしているような気が、私にはします。このような状

況下で、日本と中国が新しい形の交流を深めることは、将来の日本にとって最大の課題であり、世界にとっても、たいへん大切なことであると思います。

そのためには、言葉つまり中国語教育であり、若いときに一緒に教育を受けることが大きな力となるはずで、教育は一朝一夕にして出来るものではありません。日本国内で有数の中国語教育が可能な杏林大学外国語学部の果たすべき使命は、極めて大きなものであります。このような外国語学部に子弟を預けている父兄としては、大きな期待感と共に、子供達の弛みない精進を願うばかりです。

先月、バージニア州立大学の特別教授 (Distinguished Professor) が来日された折、先生の大学では、教員は九ヶ月授業をやり、授業の無い三ヶ月は給料が貰えない代わりに海外を含め出稼ぎに行くことが出来るのだと言われていました。先生は、ヨルダンからアメリカのスタンフォード大学に留学して現在の地位を得て、七〇歳の今も現役です。一緒に来た若い助教は、ヨルダンで大学を卒業、リビアで大学院修士課程を修了、バージニアで博士課程を修了後、バージニア大学の助教になったとのこと。教育レベルの高い日本人にも、この遅しが必要なのではないでしょうか。杏林大学外国語学部の出身者も、将来、遅しく中国を始めとして世界をまたに活躍されることを心より祈ってやみません。

平成14年度

杏会定期総会・講演会開催報告

本年度の杏会総会は、平成14年6月8日(土) E棟402教室にて開催された。

まず、総会に先だって、午後1時より特別講演として、本学の長澤学長に「中高年を健やかに過ごす」というタイトルでご講演を頂いた。

講演終了後、引き続き総会が開催され、吉澤正紹会長の挨拶、藤井明外国語学部長の挨拶及び学部報告の後、吉澤会長が議長となって下記の議題が審議され、いずれも原案通り承認された。

総会終了後は1・2年の保護者の方には、藤井学部長、国松教務部長、滝本学生部長より Semester 制度・学生生活・留学等の現状が説明及び報告された。3・4年生の保護者の方には、キャリアサポートセンターより就職状況等の説明が行われた。

その後 JR 八王子駅前の京王プラザホテルに場所を移し、保健学部杏会と合同で、懇親パーティーが盛大に行われた。

記

1) 講演会

講師：長澤俊彦学長

タイトル：「中高年を健やかに過ごす」

2) 総会

- (1) 平成13年度事業報告
- (2) 平成13年度決算報告
- (3) 監査報告
- (4) 役員改選
- (5) 平成14年度事業計画案
- (6) 平成14年度予算案

3) 学部及び就職説明会

4) 懇親パーティー（京王プラザホテルにて）

5) 保護者出席者 147名



6) 平成14年度杏会役員

役職	氏 名	期 別	役 職	氏 名	期 別
会 長	吉澤 正紹	12期生	幹 事	桐生 建樹	12期生
副 会 長	西角 康彦	13期生	幹 事	宮本 哲夫	13期生
副 会 長	浅井 計明	14期生	幹 事	絹田 辰雄	14期生
監査監事	石川 雅之	12期生	幹 事	早乙女 優	14期生
監査監事	三井 康秀	15期生	幹 事	内藤 俊朗	15期生
			幹 事	渡邊 豊	15期生

敬称略



杏壇

中高年を健やかに過ぐす

学長 長澤 俊彦

生活習慣病と骨粗鬆症の話

藤原でございます。今日はお暑い中、お越し頂きましてありがとうございます。でございます。それではただいまから、長澤俊彦先生の御講演をお願いしますが、それに先立って長澤先生の御略歴を御紹介させていただきます。うに、この四月からこの保健学部長を拝命して、まだ着任したばかりで、それまでの二〇年間を三鷹の医学部の方で臨床をやっております。



長澤俊彦先生

ました。これから御紹介申し上げます。長澤俊彦先生は、私が二〇年前に杏林に着任してまいりました時に、もう医学部の教授でおられて、それから医学部長、学長として現在、学長二期目をお勤めでございます。いわば組織で言う私の大先輩であります。

ど、身内でもありますから、それなりの紹介の仕方というのがあると思いますけれども、私は長澤先生のことをまず最高の教育者であり、それから研究者であり、臨床家であられると、常に私が尊敬して目標にしていまして先生です。敬語なしでは御紹介できませんので、お許しいただきたいと思ひます。

長澤先生は昭和三十一年に東京大学の医学部を御卒業されて、大学院を経て医学博士の学位を、昭和三十六年にお取りになられます。第三内科の助手から西ドイツ、ビュルツブルグ大学の医学部の内科助手などを経験されまして、昭和四十五年の九月、杏林大学の医学部開設と同時に本学へ助教授として着任され、五十年から内科の教授、平成四年から医学部長、そして平成十年の四月から学長に就任され、ただ今申し上げましたように、この四月から学長として二期目をお勤めでございます。現在は学長として、私どもの保健学部、外国語学部を含めて全学的に高所から、私どもの陣頭に立って指導をとられておられます。杏林大学から名誉教授の称号を

この四月に受けておられます。先生は、そういうことで、もっぱら杏林大学の教育理念を実現するということで、そのことに全力をあげておられるわけでございますけれども、先生は長年、臨床家、研究家として腎臓内科、リウマチ、膠原病といった領域を御専門としておられ、この方面でも世界的に御高名な先生でございます。でありますから、学内にとどまらず学外の社会的活動として、文部科学省の学術主任専門委員、厚生労働省の医師国家試験出題員・改訂員、中央薬事審議会特別委員、臓器移植に関する研究班班長、臓器移植ネットワーク理事、環境庁の「二十一世紀における環境保護のあり方に関する懇談会」委員、富山県イタイイタイ病認定審査委員会、東京都腎不全対策協議会会長など、さらに枚挙にいとまがないほどの社会的活動をされております。今日は特に杏会の会員の皆様に御専門の領域から「中高年を健やかに過ごす（生活習慣病をいかに予防するか）」という副題のもとに、分かりやすくお話をいただけると伺っております。

それから、御父兄の皆様お見えになつていらつしやいますけれど、御子弟を私ども杏林大学にお預けいただいて、大変感謝申し上げます、ありがとうございます。教員あるいは教職員一同、精魂込めてと言いますと派手な言い方になりますけれども、良い教育をしていきたい、というふうにがんばっておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。杏会のお力は大変強いと、御協力して頂くことを力強く思っておりますので、どうぞよろしくお願いしたいと思ひます。

では、先生どうぞよろしくお願い致します。

	男子	女子
1921（大正10）年	42.1歳	43.2歳
1947（昭和22）年	50.1歳	54.0歳
2002（平成14）年	78.1歳	84.9歳

（厚生労働省統計）

図1 日本人の平均寿命

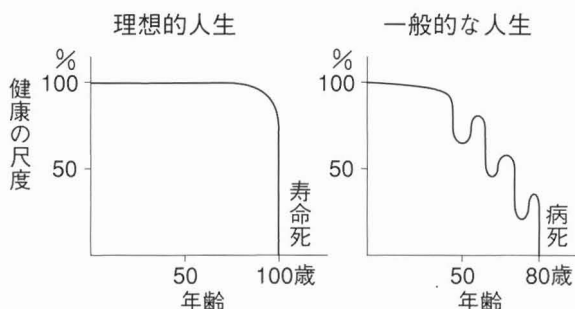


図2 健康からみた人生

藤原先生、過分なご紹介をありがとうございました。今日は保健学部と外国語学部のご父兄が大勢お見えですが、日頃ご子弟に対する本学の教育にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。本日は少しでも皆様のお役にたつように長年の生活習慣が原因になって起こり、命に関わるような病気と、生命の危険まではないが、日常生活の機能を著しく低下させる病気についてお話をいたします。話の性質上、スライドを沢山使うことをお許し下さい。

日本人の平均寿命は図1にみるように大正、昭和、平成と著しくのびてきました。長寿社会の到来です。それに伴って医療費の膨大

成人病（1957年制定）

成人がかかる生命にかかわる病気

“ある程度の年齢になったらやむなし”

対策：早期に発見し、早期治療を重視

健康診断（集団診断）—社会の責任

生活習慣病（1996年制定）

食習慣、運動、喫煙、飲酒などが発症にかかわる病気

“生活習慣次第では予防できる”

対策：生活習慣の改善—個人の責任

食習慣：肥満、糖尿病、高コレステロール血症、
高尿酸血症、循環器病、大腸癌、歯周病
など

運動習慣：糖尿病、肥満、高血圧など

喫煙：肺癌、肺気腫、慢性気管支炎、循環器病
など

飲酒：アルコール性肝疾患など

註：循環器病とは心筋梗塞、大動脈瘤、脳梗塞、下肢慢性動脈閉塞症など、高血圧や動脈硬化など動脈の異常により生じる病気を指す

（厚生省）

図3 生活習慣病の範囲

図4 成人病と生活習慣病の定義

な増加、健康保険制度の見直し、介護保険制度の導入、年金制度の見直しなどの社会問題が派生してきたことは皆様ご承知のとおりです。しかし、いかに医学が進歩しても人の寿命は一二〇歳までと推定されています。健康から見た人生は図2に示すように一〇〇%の健康を保って一〇〇歳の寿命が来た時に眠るがごとく人生を全うするのが理想的です。最近良く引き合いに出されるのが、亡くなる数週間前で宮殿から外に出て民衆と話をされていた、先日一〇〇歳で亡くなった英国のエリザベス皇太后です。ところが、現実には五〇歳を過ぎるころから、それまで健康な人も悪い生活習慣が原因となつていろいろな病気が起こって寿命にまで到達



図5 肥満の女性（病草紙より）

平安時代の病気の絵巻物語である「病草紙」の中に有名な肥満の女性の絵があります（図5）。京都に住む高利貸しの物凄く太った中年の女性が両脇を二人の侍女に支えられてやっと歩いている絵です。極端な肥満は見れば分かりますが、本当に自分が肥満であるかどうか知るには図6に示すように自分の身長と体重から簡単に計算することが出来ます。日本肥満学会では普通と肥満の間に過体重という段

肥満

できないのが昨今の状況です。今日のお話は図2の右側のような生き方をするにはどうしたらよいか为主题です。生活習慣病とは図3に示すように種々の生活習慣が原因となつて中高年になってから起こる病気のことです。この名前が一般的になる前は成人病とも呼ばれていた概念を拡大したものです。厚生省（旧）の制定を参考までに図4に示します。これらの中から二、三を取り上げてどのように防いだらよいかお話を進めます。

階をおいています。ぜひ一度計算してみてください。肥満の対策をまとめて図7に示します。食事療法については本を読むだけではなかなか理解しにくいので、一度栄養士さんの指導をうけることをお勧めします。今日ここでぜひ覚えていただきたいことは、早食い、まとめ食い、夜食と間食は太るもと、やせるための薬はない、運動は水泳や散歩のように息を吸ったり吐いたり続ける運動をすることです。肥満は高血圧や糖尿病などの原因となります。

判定	やせ	普通	過体重	肥満
肥満指数 (BMI)	20未満	～24未満	～25未満	25以上
肥満度	-10%未満	～+10%未満	～+20%未満	20%以上

$$\text{BMI (Body Mass Index)} = \frac{\text{体重 (kg)}}{(\text{身長 m})^2}$$

$$\text{肥満度 (\%)} = \frac{\text{体重 (kg)} - \text{標準体重 (kg)}}{\text{標準体重 (kg)}} \times 100$$

$$\text{標準体重 (kg)} = (\text{身長 m})^2 \times 22$$

(日本肥満学会、1999)

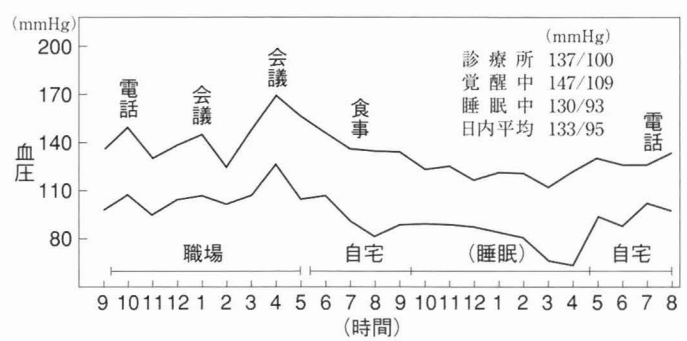
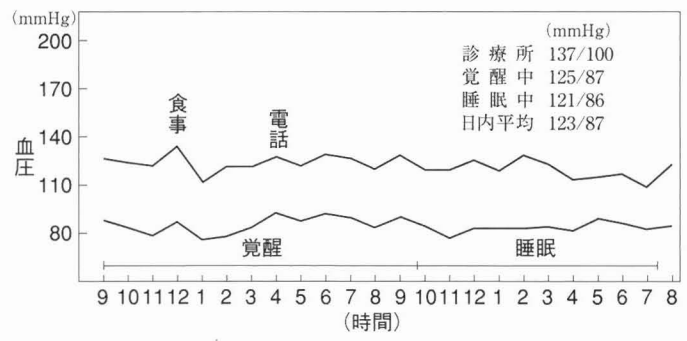
図6 肥満の判定基準

- 食事：①摂取エネルギーの制限
標準体重×20～25Kcal
②脂肪分、糖分をひかえる
③早食い、まとめ食い、間食・夜食をやめる
運動：できるだけ全身を使った動的運動（水泳など）
アルコール：ひかえめに
くすり：肥満に効くくすりは原則としてない

図7 肥満の対策

高血圧

収縮期血圧一四〇mmHg以上、拡張期血圧九〇mmHg以上を高血圧といいます。我が国では現在およそ七〇〇万人が治療を受けています。高血圧になりやすい生活習慣は、食塩のとりすぎ、過食、運動不足、ストレス、アルコールのとりすぎ、喫煙、寒気候などです。高血圧が長く続くと、動脈硬化が進行してその結果、心筋梗



(「横浜医学」48:313,1997,より引用)

図8 同一人における休日(家庭・上図)と平日(勤務中・下図)の血圧日内変動

塞や脳梗塞などの循環器病が起こりやすくなります。高血圧と診断されたならば、塩分を控える、肥満があれば節食する、運動をする、アルコールと煙草を控えるにするなど、まずは生活習慣を改めます。血圧は極めて変動しやすいものです。医師の前では高いのに、家庭で計ると正常というという現象はままあることです（白衣性高血圧）。最近では家庭で測定できる血圧計が普及しているので、購入されて自分で朝晩の血圧を計って自分の血圧の変動を把握するのも一法です。図8に休日と勤務日の血圧の変動を比較して示します。それでも高血圧が続く時には医師から降圧剤の処方が出されます。降圧剤の服用が徹底してから脳出血が四〇％、心筋梗塞が一六％減ったとの米国の大規模の臨床試験成績もあります。最近はずいぶん降圧剤が何種類も発売されて薬の副作用は以前に比べて少なくなりましたが、降圧剤は長期に服用しなければならぬので、それぞれの薬剤の副作用については十分な知識をもつことが必要です。

糖尿病

空腹時の血糖値が一二六mg/dl以上か、ブドウ糖負荷後二時間の血糖値が二〇〇mg/dl以上のいずれかの値を示す時、糖尿病と診断します。また、糖尿病ではヘモグロビンA1Cという検査値が食前、食後に関係なく六・五％以上を示し、この値が高いほど、糖尿病が重症であり、血糖値の管理が悪いことを示します。糖尿病は平安時代からあり、当時はのどが乾いて水を沢山飲むことから飲水病として恐れられていました。有名な「この世をばわが世とぞ思う望月の

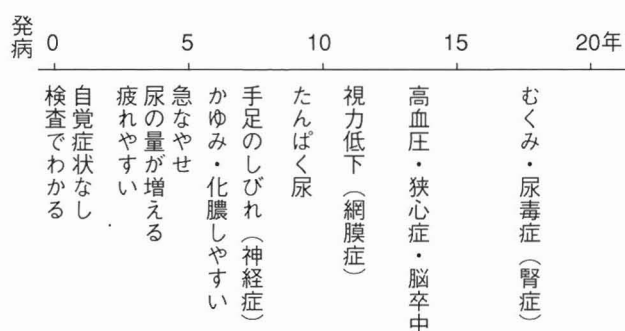


図9 血糖値管理の悪い糖尿病の経過

りやすい生活習慣は過食（肥満）、運動不足、アルコールのとり過ぎなどです。糖尿病がなぜ恐いかというと、一〇年—二〇年と続く間に三大合併症（網膜症、腎症、神経症）や脳梗塞、心筋梗塞、下肢の壊死などを生じるからです。コントロールの悪い糖尿病の代表的な経過を図9に示します。糖尿病の管理治療はまず食事療法と運動療法です。それで血糖値とヘモグロビンA1Cの値が正常化しない時には薬物療法（経口糖尿病薬とインスリン注射）を行います。まだ、高血圧や蛋白尿が出現してこない時期にきちんと血糖値を管理すれば、糖尿病が進行して種々の合併症の発症を防ぐことが出来

欠けたることなしと思えば」との歌を詠んだ摂政関白藤原道長（九六六—一〇二七）は五〇過ぎから糖尿病により目がみえなくなり、心臓も悪くなり、むくみも起こり不幸な晩年でした。我が国では終戦後は糖尿病はほとんどありませんでした。やがて飽食の時代になるとともに中年から発症が増え、今や全国で治療中二四〇万人、強く糖尿病が疑われるひと六〇〇万人と、国民病といってもよい時代になりました。糖尿病にな

ます。糖尿病は早期に発見してきちんと自己管理することが極めて大切です。

高脂血症と高尿酸血症

この二つは採血して血液を調べて始めてわかる異常です。血液中のコレステロール値が二二〇mg/dl以上、中性脂肪（トリグリセリド）が一五〇mg/dl以上の時、高脂血症といえます。一部は遺伝的素因によって若い時から起こることもあります。大部分は中年になってから過食、脂肪分のとり過ぎ、糖分のとり過ぎ、アルコールのとり過ぎ、喫煙が原因で生じます。高脂血症が長く続くと動脈硬化が進んで循環器病（図3）が起こってきます。高脂血症と診断されたら原因となる生活習慣を改善すること、医師の判断によってコレステロールを低くする薬を服用します。最近では数種類のよい薬が開発されており、米国でこれらの薬の長期服用で心筋梗塞や脳梗塞が二〇—三〇%減らすことが出来たとの報告もあります。一方、血液中の尿酸値が八mg/dl以上の時、高尿酸血症といえます。ほとんどが中年以降の男性に認められる異常です。尿酸値が高くなると痛風発作が起こりますし、尿路結石や腎機能低下が起こります。高尿酸血症が長く続くと、動脈硬化が進むといわれています。尿酸値を高くする生活習慣は過食、アルコールのとり過ぎ、ストレスなどです。尿酸値が高いといわれたらもちろん悪い生活習慣を断ち切る必要がありますが、最近では尿酸値を確実に正常化させる薬が普及していますので、これらの薬を服用すれば簡単に尿酸値をコントロール

ルできます。尿酸を多く含む食事制限しか良い方法がなかった時代にくらべれば現代医学の勝利と言えます。ただし長期の服用が必要です。副作用を起こさないように注意することが必要です。

喫煙と肺気腫

喫煙が肺ガンの原因となることは有名な事実ですが、その陰に隠れて意外と知られていないのが、長いこと喫煙を続けた時に起こる肺気腫です。肺の構造は気管、気管支、細気管支、さらにぶどうの房のような肺胞になります。この肺胞で酸素と炭酸ガスを交換しています。この肺胞が風船のように膨らんで収縮しにくくなった状態を肺気腫といいます。現在喫煙が原因となって肺気腫になった六〇—七〇歳代の人が四〇〇万人いると推定されています。肺気腫の初

- ・亭主を太らせる
- ・酒を大量に飲ませる
- ・夫をいつも座らせておく
- ・動物性の油やバターをたくさん食べさせる
- ・塩分の多い食事を毎食出す
- ・コーヒーをがぶ飲みさせる
- ・タバコをホイホイ吸わせる
- ・夜更かしをさせる
- ・息抜きの温泉旅行などさせない*
- ・始終文句ばかり言っている

(Mayer)

*アメリカには温泉はありません。
これは私の異訳です。

図10 亭主を早死にさせる10箇条

期の症状は平地を歩くのは平気だが、駅の階段を昇ると息切れがすることです。進行すると、安静時の呼吸も苦しくなり、呼吸不全といった状態になります。また、痰や咳が続き、重症な肺炎にも罹りやすくなります。初期の肺気腫は呼吸機能検査によって残気量が多いことにより簡単に分かります。駅の階段を昇る時息がきれるようでしたら、すぐ禁煙しましょう。

骨粗鬆症

「こつそすう症」とも「こつそしょう症」ともいいます。辞書を引くと粗とは、あらくなる、鬆とは髪の毛が乱れる、ばらばらできつちりしていないこと、とあります。骨粗鬆症とは文字通り、とくに閉経後からあとの女性で、骨の密度が減って骨がすかすかになり、骨折しやすくなる病気です。カルシウムをたくさん含む丈夫な骨を保つためには、女性ホルモンが関係しているのです。直接生命の危険性はありませんが、骨折により日常生活が著しく障害され、時には寝たきりの原因となります。我が国の五〇歳以上の女性に限ってみても七〇〇万人くらいの人が骨粗鬆症といわれています。骨粗鬆症の始まりのサインは背中が張ったり、痛む、前かがみの姿勢がづらい、起床時に背中や腰が痛む、寝返りをうつと痛い、あおむけに寝られない、などの症状です。このような訴えがあれば、骨粗鬆症を疑って検査してもらいましょう。この病気の恐ろしい点は、背骨をはじめとして大腿骨や肩などの骨折を起こすことです。戦前のおばあさんの多くは腰が曲がり、杖について歩いていましたが、

これは骨粗鬆症によって腰椎や胸椎の病的骨折を起こした結果です。閉経を迎えたならば骨折しないように注意する、カルシウムを充分に摂る、適当な運動をする、との三つを日常生活にとりこむ事が大切です。骨粗鬆症と診断されたならば、上記の三つを実行すると共に、医師の判断によって骨強化治療（経口と注射の二つの方法があります）が行われます。

以上、生活習慣病と生活機能を障害する代表的な病気である骨粗鬆症について駆け足で述べてきました。生活習慣の改善には三つのステップがあります。第一は正しい健康情報を学ぶ、第二は自分の悪い生活習慣を明らかにする、そして最も大切なことは、自分に見合った改善実施策をたてて時間をかけて実践することです。だいたい以前になりますが、ハーバード大学公衆衛生学のマイヤー先生は亭主を早死にさせる方法として図10の十箇条を挙げました。その裏には、この十箇条と正反対のことをやって亭主も自分も長生きしようとの意味が込められています。皆さん、どうぞ悪い生活習慣を直し、女性の方は骨粗鬆症を予防して、ぜひ長寿をまっとうして下さい。これで私の話を終わります。

新 任 教 員 紹 介

平成十三年度

伊藤 盡



①担当 英語、教育実習

②出身地 東京都

③経歴 慶應義塾大学文学部卒、明治学院大学大学院文学研究科博士前期課程（英文学専攻）修了、アイスランド政府奨学金給付留学（アイスランド大学）、慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程（英米文学専攻）単位取得退学。メーラルダーレン大学スウェーデン語研修修了。

④趣味・愛読書・その他 映画・演劇鑑賞、ドラマス演奏、サッカー観戦

平成十四年度

高木 眞佐子



①担当 英語、英文学

②出身地 生まれは福岡県、育ちは神奈川県

③経歴 慶應義塾大学フランス文学専攻、慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程を経て、同科博士課程単位取得退学（中世英文学専攻）

④趣味・愛読書・その他 趣味はクラシックバレエ。昔は自分でも踊っていました。今は見るのが専門。今でも身体を動かすことは好きなので、休日は水泳やマシニングで汗を流します。愛読書はジョージ・オーウェル『1984年』とマルセル・ブルーストの『失われた時を求めて』。音楽はプッチーニやモーツァルトをはじめ、クラシックはなんでも聴きます。

Seminar

ゼミナール紹介



赤井

ゼミナール

和泉 尊子

赤井ゼミナールは四年生三人、三年生七人と言った、少人数での授業です。私たちは赤井先生の指導のもと、The Studies Bookという全て英語で書かれたテキストを使用しながら、イギリスの言語文化研究に励んでいます。基礎からの勉強なので、とても分かりやすく、休憩時間には、お茶をしながら

先生といろんな話題で盛り上がります。そんな明るく・楽しくメンバーにも恵まれています。

秋学期には一九世紀イギリス文化・社会（ヴィクトリア時代）のいくつかのトピックスについて、発表や討論をする予定です。そして、春学期にできなかった、コンパを通して三・四年生の親睦を深めていく予定です。

赤井ゼミは常に、多方面での新しい情報が手に入る恰好の場所です。私たちにゼミ活動を自由に計画させてくれる環境を作ってくれます。先生も含め、ゼミ生全員でたくさんの方を経験し学んでいきたいです。

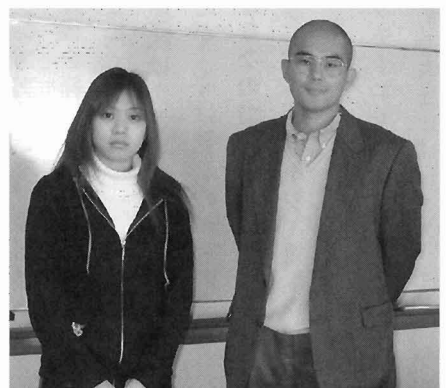
石黒

ゼミナール

松園 優子

ゼミではジェフリー・チョーサーの『カンタベリ物語』を読んでいます。

『カンタベリ物語』は騎士・修道僧・料理人などなど、様々な職業・身分の人たちが登場し、ロンドンからカンタベリへの巡礼に向かう旅の途中でそれぞれの物語を語り合うというもので、授業では今『The Reeve's Tale』



（代官の話）を読んでいます。

一四世紀の英語（中英語）なので、今の英語と比べると発音も文法もかなり違います。単語・単語辞書を引く、中英語から現代英語に訳し、そして現代英語から日本語に訳すという感じで、たった一行訳するのにかなりの時間を費やしてしまうこともあり、とても大変ですが、先生が時間をかけ丁寧に教えてくださるので、今では少しずつですがこの授業を受ける以前よりも『カンタベリ物語』のおもしろさなどがわかってきました。

中英語はもちろん、一四世紀のイギリスという国がどんなものだったかなど、多くのことを学べるゼミです。

今泉

ゼミナール

浅見 友博

私たち今泉ゼミナールでは日本語の文法を研究しています。主として現行の日本語教育における文法の諸問題を考えています。



ゼミ生の国籍は日本（七人）、中国（四人）、韓国（四人）で、日本人学生と留学生のバランスがよく、ゼミでの議論は、自国での日本語教育事情と母語に対する知識とをふまえた熱のこもったものになります。各国での日本語教育そのものが変わりつつある中で、現在も変化してやまない日本語という言語の文法も、より適切な扱いを受けるべきであることが、議論を通じて分かっています。

ゼミ生はゼミ外でも共に学ぶ機会が多く、良好な人間関係が生まれています。言語に対する強い関心がゼミ生を結びつけていると言えるでしょう。お互いが意見をぶつけ合える環境に恵まれ、とても楽しく勉強できるゼミだと思います。

なお、杏園祭には「日本語愛着度の測定」と題して、文法や語彙など、様々な視点から日本語力を測る発表会を予定しています。

岩崎春雄

ゼミナール

工藤たをり

私たち岩崎春雄先生のゼミでは主に



集まります。今年は卒業を控えているので、卒業論文について深く掘り下げて行くと同時に先生からのアドバイスをいただき、取り入れていく予定です。しかし残念ながら今年度いっぱいでは先生が退職なさるので私たちが最後のゼミ生になってしまいました。卒業までの残り僅かな時間を大切に、有意義に過ごして行きたいと思っています。

岩崎公生

ゼミナール

生ハムゼミこと岩崎公生ゼミは、ホテル・旅館業を主体とするホスピタリティ業に興味を持つ人と自ら意欲的に調査研究することが好きな人に向いています。実際に自分の目・耳・鼻・舌・皮膚の五感に加えて足を使い、卒論テーマに取り組みます。

本年六月には、ゼミ生自身の提案と手配により温泉町草津にて合宿を行い、二日間の調査活動を実施しました。調査は事前に用意されたチェックシートをもとに、地元観光協会、ホテル・ペンション協会での聞き込み調査と老舗旅館数軒の見学を行い、別動体は草津名物の「草津外湯めぐり」を実施体験



しました。

夏季休暇中に第二回目の合宿を修善寺温泉で行い、修善寺と草津両人気スポットを対比しそれぞれの共通点と相違点を探る予定です。ホテル・旅館・外食などホスピタリティ産業に興味のあるもの、生ハムゼミに結集せよ！

江田

ゼミナール

武部 幸恵

江田ゼミ（三年ゼミ）は日本人二人、韓国人二人、中国人一六人という多国



籍なゼミです。日本語を深く知ることを目的とし、現在は金田一春彦氏の「日本語（上）」を読んで、要点をまとめて発表する活動をしています。日本人からの見地からだけではなく、中国人、韓国人の見地からの考えを知る事ができ、毎週新しい発見が得られます。時々、江田先生が用意してくれたプリントを用い、ディベートを行ったりもします。最近「日本語（上）」を使ってレジュメを作る練習も始めました。雰囲気はとても和やかで暖かく、時には冗談を交えながら楽しく行っています。これが私たち江田ゼミです。

江戸

ゼミナール

宮原 正憲

江戸ゼミナールでは、オセアニア地域の国々について研究しています。私は、オーストラリアの先住民であるアボリジニについて、つまり彼らの歴史・文化・伝統・アイデンティティの問題などについて研究しています。私はアボリジニに関する文献を読み、指定された範囲を自分の言葉でまとめ、発表するという形式で授業を行います。その後、先生が細かく解説をしてくれれます。もし、何か疑問点があれば、議論を行うこともあります。このゼミでは、オセアニアに関する知識を得ることよりも、問題意識を持つこと、つまり物事を批判的にとらえることが最も重要です。

現在、メンバーは四年生が一人、三年生は四人の少人数で構成されているため、非常に忙しい。しかし、その反面、先生との間に隔たりはなく、和やかに授業は進められています。

今年の夏に、長野県某所にて、合宿を行う予定です。



河原崎

ゼミナール

押田 麻希

お茶を頂きながら、時折放つ先生のボケとツツコミを聞くことができる。私も河原崎ゼミナールは、そんな和やかなゼミです。

ですからつい授業中も話が脱線してしまうことがあります。中国からの留学生を含む総勢一四人が、あの狭い研究室に毎回集まっています。そんな大人数？での授業は、私どもが意外

に日本のことを知らないということに
気づかせてくれます。口に出して説明
しようとしてもできないのです。これ
は日本人学生だけでなく留学生にも
言えることで、自国の歴史や文化、言
語についてなかなか答えることができ
ません。しかし、このゼミは、そんな
私どもにあらためて自国のことについ
て考えるきっかけを与えてくれます。
これを機に、皆さん、普段何気なく過
ごしている毎日の中で、たくさんの疑



問を持ち、自分の国について考えてみ
ませんか。

川地 ゼミナール

竹内 綾子

川地ゼミでは、四〇〇年以上を経て
も、なお人々の心をとらえ続けている
シェイクスピアの作品を通し、その世
界を、文学・演劇・芸術的局面から鑑
賞し、各自の興味分野や疑問点等を卒
業論文のテーマに設定し、研究を進め



ています。川地美子教授のご指導の下、
作品の解釈だけではなく、登場人物の
心理描写やルネサンス時代の思想、ま
たシェイクスピアがしばしば作品中に
取り入れた「コミック・リリーフ（道
化のシーン）」や「異性装」の技巧な
ど、幅広い知識を吸収しています。昨
年は、四大悲劇の一つ「ハムレット」
を精読し、ハムレットの独白をはじめ
とするシェイクスピアの優れた言葉の
技巧、性格創造や劇的構成の素晴らし
さに触れ、また観劇にも出かけました。
今年は、「ヴェニスの商人」を読み進
めています。「英米文学」と聞くと少
し気難しいイメージがありますが、
「文学とはそもそも楽しむもの」とい
う概念を、川地教授が再認識させてく
れる明るく楽しいゼミです。

金田一 ゼミナール

青木 藍

金田一ゼミでは主に意味論を勉強し
ています。生活をしていく上で覚え、
日常で気にも留められず、さも無意識
かのように放たれる言葉たち。それら
の本質をあらゆる角度から独自に分析



していきます。個人個人の発する言葉
は多様であつても日本語話者なら共通
の単語への概念があります。その概念
を明確にするために私たちは考え、答
えを求め続けます。その上で私たち生
徒は毎行き詰まりを経験します。し
かしそんな私たちに金田一先生は全く
違う例を提供し他の視点の存在を暗示
して下さいます。こうして私たちは同
時に行き詰まりを解消するための、分
析的な物の捉え方も学習しています。

楠家

ゼミナール

中條 勝之

私たち楠家ゼミナールでは、英文テキストを講読し、これを各自がレジュメにまとめ、毎週一人ずつ発表しています。テキストは幕末・明治期に活躍したイギリス外交官アーネスト・サトウが外国人の日本研究団体である日本アジア協会に発表した日本文化に関する論文です。勉強だけでなく、気さくな先生のお話を交えて、楽しくゼミが進んでいます。明るい人や真面目な人、個性的な人などが集まり、ゼミは毎回



盛り上がっています。

先日のゼミ・コンでは、みんなが一つにまとまり、お酒を飲むだけでなく、カラオケをするなど、大成功に終わりました。また別の日にはボーリングもやりました。大学では見れない先生の一面が、飲み場やカラオケやボーリング場で垣間見られました。とても親近感が湧き、私たちと先生は非常に仲が良くなりました。

このゼミは、私にとって、学ぶ場所だけではなく、ほかのゼミ生から刺激を受ける場所でもあります。それぞれが取り組んでいるテーマが異なるので、今まで知らなかった新しい発見ができるのです。

國松

ゼミナール

青木 宏泰

文学ゼミでは、三年次に文学の研究に勤しみます。扱われるのは、昭和初期の文豪、芥川・太宰の作品です。予め順番を決めた後、毎週一人ずつ、自分が興味を持った作品についての発表を行うという形で進められていきます。発表の内容は、主にその作品が書かれ

た頃の作者の様子・その作品に対してなされたいくつかの批評・そして発表者の作品に対する考察・感想等です。

要所要所にその当時の時代背景や、漱石、志賀を中心とした、日本文学史における重要な作家達との関連性、又思想の流れを含めた日本文学史等を、先生が解説してくれます。先生が語るや否や、あたかもその当時の喧騒が、窓の外から奔流のごとく聞こえてくるかのようです。昭和初期の緊張感が伝わり、その当時の香りが漂う空間に私達は身を委ね、しばし時を忘れます。と言ったら少々大袈裟ですが、勿論先生は昭和初期に生きていたわけではありません。そして四年次には、卒論を書くに当たって先生からの指導を受け、卒論を仕上げていきます。

熊谷

ゼミナール

増淵 千尋・栗原千恵子

私達熊谷ゼミナールは、四年生三名、三年生三名で、毎週火曜日に活動を行っています。当ゼミでは、情報社会における日本の社会問題を研究しています。英語を国際交流の手段として考



え、授業は全て英語で行われます。

春学期は「Taking Sides」というテキストを使い、アメリカでの社会問題についてディベートの練習をします。

また、秋学期には、Power Pointを使って、三年生はアメリカの社会問題の、四年生はその日米比較のプレゼンテーションを行います。ゼミの集大成である卒業論文は英文での提出です。秋学期にはさらに、日本語の訓練としてクリティックをして、批評眼を養います。

合宿は春・夏に行いますが、ゼミ生同士の交流を深める場でもあります。夏合宿については、静岡県にある禅寺にて、座禅、ご法話といった日本の伝

統、文化に触れることができ、心身共に貴重な体験をさせていただいています。

当ゼミはタフです。失敗や、恥をかくこともあるでしょう。しかし、これらの経験は将来、必ず役に立つと思います。

小山 ゼミナール

高山 智栄

二〇〇一年九月一日アメリカで同時多発テロが起こりました。その事件以降、文明対立だとか文明衝突という言葉をよく耳にします。そういったなか、私達のゼミでは文明論から現代を考えることを目的としています。A・J・トインビー『挑戦を受けている現代』を春休みで読み、前期セメスターではサミュエル・ハンチントン『文明の衝突と二一世紀の日本』を教材としています。今まで文明論の本を読んだことがなかった私でもこの教材は読みやすいものになっていて、スムーズに読むことができました。

授業形式としては教材の本を読み進めつつグループごとに発表を行って

ます。またテーマを設けて議論を交わしたりもします。私達のゼミには台湾・中国からの留学生が多くいるのでそれぞれ違った意見が聞けますし、面白いものです。

留学生の多さはこのゼミの魅力でもあります。ゼミの後にはお茶会を行ったりと交流も盛んにしています。留学生達と一緒に勉強したい、友達になりたいと思う方は小山ゼミをお薦めします。



椎名

ゼミナール

須田 優子

「イブンカコミュニケーション」これを聞いて日本語を話すイタリア人、フランス語を話す日本人、しまいには関西弁を話す宇宙人までもが登場するというテレビコマーシャルを思い出す人も多いことでしょう。これは「異文化コミュニケーション」を全面に押し出し会話教室に通いましょう。というもの。この「異文化コミュニケーション」を直接肌で感じることができ、これから先の新時代を見据えて本当の意味での「異文化コミュニケーション」ができるゼミ。それが私たち椎名ゼミです。

私たちのゼミの最大の特徴は、留学生が大変多いことです。現在では四名の日本人を除いて残り、九名全員が留学生です。ゼミの時間には日本人が少ない為、より一層留学生との対話が増えます。また、お互いの気持ちを知ること、かけにもなり文化の相違点や物事に対する捉え方の違いを実感します。

秋からは卒業論文について発表して



いきますが、各個人が関心を持っている世界の様々な国における日本語教育についての調査やその国の文化・政治・経済・歴史・言語環境などの分野からも研究調査していきます。

私たち椎名ゼミを語る上で欠かせないものは、表面上だけの薄っぺらな国際化ではなく人と人との関わりを大切にするゼミである。ということです。

諏訪内

ゼミナール

清水 克也

私が参加させていただいている諏訪内ゼミは、極めて特異なゼミであると思は思う。なぜなら、外国語学部に所属しているながら、ゼミで扱っている内容が言語や異国文化の研究ではなく、国際人のパイオニア、新渡戸稲造という一人の人物の思想を追求するという

形をとっているからだ。

正直なところ、ゼミに入る前は不安があった。言語を極め、将来に役立てることが本来の目的であると思うからだ。だが、実際にこの人物の生い立ちから行動、思想に触れてみると、なかなか面白い。講義を普通に聴き、当然のように与えられた課題をこなしているより、得られることは多いと考える。現代社会を生きて行く上でも、それは大きな教訓となつて生かされるはずだ。非常に頭を使うので大変ではあるが、だが、そんなところがこのゼミの大きな特徴であると言える。

得たものを生かすも殺すも自分次第。大変ではあるが、自分のためにも、先生のためにも、少しでも自分の糧にしたい。

詹

ゼミナール

斎藤 貴朗

ブーン：パチン。こんな音を最近聞きました。夏の風物詩蚊の最後です。どこで聞いたかという、JRお茶の水駅から徒歩五分の湯島聖堂というところです。簡単に想像できるように、



夏の寺院や神社のような、ちょっと樹の生えたところには蚊がいます。しかも沢山。

私たちが何故そのような場所での襲撃を受けていたか。それはゼミナールで行う講義内容と深く関係があります。あとは東洋芸術の美しさ故とでもいいでしょうか。詹ゼミでは漢詩を読み、味わい、詠っています。

漢詩界のプリンス？孔子、彼の像がそこにあります。孔子の像を観るためだけに行ったわけではありません。その像があるということは、この湯島聖堂はそれだけ中国の文化と関係が深いのです。いわば日本で中国文学や漢詩を

滝本

ゼミナール

瀧山 貴功

私たち滝本ゼミナールは、四年生四名、三年生一四名で毎週月曜日に活動しています。

学ぶ人のメッカなのです。そんなわけで蚊に襲撃されていた私たちでした。



私たちのゼミではラテンアメリカの歴史や文化を学んでおり、自分たちで考え行動することの重要性についても学んでいます。その行動のひとつとして、今年の夏休みには箱根で合宿を行いました。合宿は合宿係を中心にみんなで計画をし、先生や先輩方からアドバイスをいただいて成功させることができました。合宿は三年生を主体に行われ、フリーディスカッションの授業や先生との個人面談があり、さらに四年生や学院生の先輩の研究していることを知ることができたり、いろいろと話ができたりと貴重な体験をすることができました。もうひとつの大きな活動として、私たちは今年の杏園祭でタコスを作り出店して完売という成功をおさめました。様々な活動をしていく中で困難なこともあるでしょうが、ゼミ全員で助け合って一つ一つを乗り越えていきたいと思っています。

塚本

ゼミナール

佐藤 美華

私達、塚本ゼミナールは韓国留学生が一名、中国出身の学生が二名、留



学経験者が二名、現在留学中の学生が四名、秋から留学する予定の学生が一名、ダンス好き、芸術好きの合計一二名の個性豊かで活動的な三年生と卒業論文と就職活動で忙しい四年生四名で構成されています。

現在は、一人一人が自分の興味に関することをもとに、卒業論文の完成を目指して、今から資料の収集に励み、それぞれのテーマをしぼり込んでいる段階です。先生は、ひとりひとりの個性と興味を尊重してくださるので、私達は、毎週自由に、楽しく活動しています。

また、一〇月に行われる杏園祭に向けて、中国語劇の練習にも取り組んで

います。始めはなかなかセリフを覚えられなかったり、中国語の発音やリズムをつかめず苦戦しましたが、練習を重ねるたびに完成に近づいてきました。杏園祭では、中国を知ってもらえるような企画を考えています。今後は、杏園祭の成功と卒業論文の完成に向けて、先生と先輩方と共に協力してがんばりたいと思います。

鳥尾

ゼミナール

岩坂枝里子

皆さんは、旅行に何を求めて出かけるのでしょうか。①旅先でバツリ近所のおばさんに遭遇。地元話に花を咲かせる事②旅先での三度の食事、親がわざわざ作ってくれる家庭料理に安らぎを覚える事。まさかこのような普段通りの日常生活体験を望んで、旅に出かけるわけではないですね。私達は、旅先での非日常的な体験を、見て、聞いて、味わって、匂って、感じる、そんな時間と空間を求めて旅に出るのではないのでしょうか。このゼミでは、体験から得られる光を観る、この観光という価値について掘り下げて実践的に

学んでいます。

そして、日本を知る、という大変おもしろい作業にもあたっています。皆さんは、魅力いっぱい日本を、どのように外の国の人達にアピールする事ができるでしょうか。私達は、各都道府県から取り寄せた観光政策資料を元に、日本の魅力について追究していきます。新しい日本と出会い、出かけたくなりますよ。

私達のゼミは、留学生も含め、英語・中国語・日本語学科の男女一四人



と鳥尾先生、先輩方で作り上げている
アットホームなゼミです。日本を知り
たい！旅行が大好き！という方、ぜひ
我がゼミと一緒に、光を覗よう！

中村

ゼミナール

岡田 温

我々のゼミは中国式の入れ方で入れ
たお茶を飲むことからはじまります。
研究室の棚にある数々の茶葉から毎日
チョイスします。ときにはお菓子も出
て、和やかな雰囲気での授業が始まりま



す。

本年度は三年生（三人）と四年生
（四人）が同じ時間にテーブルに就き、
授業を展開していきます。我が中村ゼ
ミナールの研究テーマは「近代漢語研
究」です。近代漢語の文献は数多く残
されており、その中で我々が研究テー
マとして取りあげた作品は「祖堂集」
と呼ばれるものです。この文献は中国
における初期禅宗史伝の一つで、仏教
の教義や系譜を分かり易い例えや物語
で説明しているものです。演習は輪読
の形をとっており、当番の学生が解釈
を披露した後、先生の解説を聞きます。
我々はこの文献を通して近代漢語と
現代中国語の相違点や共通点を知り、
また中国文化を形成した要因の一部で
ある「禪」という哲学に時代を超えて
触れることができるのです。
今日も静かな研究室に先生の解説が
読経のごとく響き渡ります。

原田

ゼミナール

浅見 真理・酒井恵理子

原田ゼミは現在三年生五人です。去
年は先生がイギリスに留学されていた



ので、四年生はいません。このゼミは
少人数なので先生とのコミュニケーション
がとりやすく、授業にも集中でき
ます。私達は今、洋書を分担して内
容の要約を進めています。この本はイ
ギリスの literature について書かれて
います。先生は毎回のトピックに合わ
せていろいろな資料を持ってきて説明
をしてくれるので、その時代のことを
よく理解することが出来ます。先生は
文学を研究されていますが、卒業論文
のテーマには音楽、文学、スポーツな
どイギリスに関するさまざまな内容が
含まれます。この間もサッカーの歴史
について話してくれました。

原田ゼミでは、親睦を深めるための
コンパや、OB & OGとの交流が活発
です。ゼミのメーリングリストもあり
先輩方との情報交換もできます。夏に
は研究発表のための合宿が予定されて
います。このゼミは、勉強だけでなく
いろいろなことを学ぶことができ、新し
い発見の連続です。これからより深い
研究を進めて行きたいと思っています。

パロケッティ

ゼミナール

私達のゼミナールは、パロケッティ
先生のもとで、American pop culture
（アメリカの大衆文化）について勉強
しています。

今年度の前期は、日本の新しい pop
culture についてプレゼンテーション
を行ったり、ジェームス・ディーンの
「Rebel Without a Cause（理由な
き反抗）」を見て、様々な点からディ
スカッションをしたり、当時のアメリ
カの考え方を学びました。とても
クラシックな映画なので、現代の映画
とは異なる点がたくさんあり、新しい
見方、考え方が身についたと思います。
前期の最後の時間には、四年生との



ティーパーティーで交流を深め、卒業論文についての話を聞いたりしました。今は秋に開かれる杏園祭で行う「FILM FESTIVAL」に向けて、準備を進めています。今年は発表テーマが「Friendship」に決まったので、そのテーマに沿った映画を五本選び、各自研究を進めています。

藤井 ゼミナール

私たちの藤井明ゼミでは、お菓子を



いただきながら、中国の文字改革についての原書購読をしております。内容は少々むずかしいですが、先生の楽しいおしゃべりをききながら毎週楽しい時をすごしています。

と、説明はこのくらいにして、藤井先生について少々お話しします。

藤井先生はとてもやさしくて、ゼミ中に先生の声の子守り歌にきこえ、夢ごちになつていても、親切にしてくださる心の広い先生です。また、ゼミのテーマ以外にも「徐 福」のお話な

堀田

ゼミナール

韓 戈

堀田ゼミでは、中国の近現代文学を研究しています。いろいろな小説を原文で読み、その小説の歴史的背景や中国社会の変化を読み取ることができてとても楽しいです。

文学というとなんか難しいイメージがありますが、それは勘違いです。魯迅が「翻訳は再創作である」とおっしゃっておられるように、翻訳、特に文学翻訳は細かい文法や単語を全部調べて一つ一つそのまま訳すものではありません。一篇の小説を十人が読めば十人十

どをしてくれ、時には、そんなお話で時間が過ぎることもあるくらいです。

メンバーは、女性が七人で、男性が先生を入れて二人です。かわいい子ばかりなので、先生も毎週楽しみにしてくれているようです。

早くも、ゼミの一年目は終わろうとしています。来年もより一層みんな仲良くなれるよう、また後輩とも交流できるよう、藤井先生と頑張っていきたいと思っています。



色の感想を持つのと同じように、文学翻訳も人それぞれの理解と感想で自分なりに訳すことができます。もちろん中国語初級者から上級者まで誰でも楽しめるはず。また、文学を通じて中国語を学べば表現が豊かになりますし、中国に対する興味も一層湧いてくることでしょう。

ゼミの雰囲気はというと、とてもアットホームで、固苦しさが全くありません。私の場合は、いろいろとわがままも聞いていただいて、学校のことからプライベートなことまで先生に相談に乗っていただいています。堀田先

生も熱心に考えてくださるので、本当に感謝しています。

今では暇があれば小説を読んだりしますが、この趣味は一生続けていけそうです。これも堀田ゼミのお蔭です。

マクミラン ゼミナール

小玉 麻耶

私たちマクミランゼミは、優しい笑顔が魅力のマクミラン先生を中心に、四年生八人、三年生六人で、和気藹々と活動しています。

毎週、詩や短編小説など、たくさんの文章を書き、発表し合います。友達の作品や先生のアドバイスから学ぶことは大きく、多くの刺激を与えてくれます。ゼミでは、書きたいことを好きなように書くだけでなく、様々な条件下、限られた時間内で書くことが多く、膨大な発想力や表現力が要求されます。当たり前のようには存在していた物事の中に、新しい側面を発見したり、それらに感動を覚えたり……。味わった新鮮な感情から発想したこと全てを文字にすることは、決して容易な作業ではありません。しかし、それらを書き上



げた時の達成感は大きく、自らの自信へとつながっていきます。

また今年六月二八・二九日に、山中湖で合宿を行いました。湖畔などを散策して短歌を作成したり、ゲームをしたりと、皆で楽しい時を過ごしました。

増淵

ゼミナール

野崎 敏之

増淵ゼミでは、毎週各自の卒業研究テーマの中間報告や執筆上の個別指導が行われておりますが、昨年度は、高



校までに学んできたルネサンス、六

一四世紀のルネサンス以前に存在した複数のルネサンスの本質と特徴とを様々な角度から論証したEd. by Warren Treadgold, Renaissance Before the Renaissances, Cultural revivals of late antiquity and the middle ages, Stanford, California 1984.の原書講読が行われました。この講義を通じて優れた論文の構成や、論証方法、叙述上の留意点等を学び、これらができるだけ各自の研究に取り入れられるように増淵先生の親身なご指導を受けています。そのおかげで、夏休みを前にした今日、各自の卒業論文の内容がその輪郭を現してきました。九月の下旬に行われる妙高高原での合宿ではその成果を報告することになっ

ております。

この恒例の半期に一度のゼミ合宿は先生とゼミ生およびOBとの交流の場となっており、先生や先輩たちの貴重な経験談をお聞きすることができま

す。今年度で増淵ゼミは一応の終止符を打つことになるわけですが、増淵先生から授かった教養は今後とも私たちの糧となり成り続けます。聡明でユーモアのある増淵先生、私達を支えてくださった保護者の方々、本当に今までありがとうございました。紙面上失礼申し上げます。

吉村

ゼミナール

川浦亜佳根

吉村ゼミでは、アメリカの文化、歴史、政治などの様々なことを幅広く学ぶことが出来ます。また、知識を深めるだけでなく、自分の関心を広げるこ



ともできます。一学年一〇人未満のゼミなので、お互いがいい刺激を受けています。ゼミは、お菓子を食べつつ、お茶を飲みつつと、とても和やかな雰囲気の中で行われます。主に先生の話を聞くのですが、一人一人に課題が出されたり、みんなで討論したりと、学生の活動の場もしっかりと設けられています。

卒業論文は、先生の個人指導のもと、三年生の終わり頃から取り組みます。アメリカに関するものであれば何でもよいので、自分の興味があるものを、とことん追求することができます。

ゼミ合宿は毎年、二月の下旬頃に行われています。私達の学年はみんな地

方出身だったので、今年は御茶ノ水駅近くのビジネスホテルに泊まり、主に卒論の資料集めをしたのですが、下町などの情緒もしっかり堪能できたり、とても内容の濃いゼミ合宿となりました。

渡辺

ゼミナール

梅村 奈央

皆さんは、アメリカという国に対してどのようなイメージをお持ちですか？ 私たちが今持っているアメリカのイメージとは、いつ、誰によって、どこから、どのようにインプットされたものなのでしょう。そこで、私たちが抱いているアメリカ像を徹底的に洗い直し、現在アメリカが抱えている様々な問題を通して、アメリカとは、一体どのような国なのか、本来誰の国であるのかという疑問を投げかけ、私たちの抱くイメージと現実の対比を研究テーマとしています。

前期は、日米関係にまだまだ暗い影を落としている太平洋戦争をテーマに、各々が文献やインターネットを使って調査し、資料を集め、発表を行って



ます。同時に、論文の書き方指導も行われ、すでに現段階から各自で卒業論文の準備も進めています。

ゼミの雰囲気はとても明るく、様々な意見が飛び交っています。お茶を飲み、お菓子をつまみながら、毎回楽しく激論を戦わしています。先生と学生が一体となつてとことん熱くなれるゼミの醍醐味がここにあります。渡辺ゼミは、そんな場所です。



学生委員会から

教授 滝本 道生

学生部では、学籍管理、課外活動の指導、福利厚生を軸に、学生生活の基盤整備と充実のための活動を行っています。基本的なことですが、高校の生徒指導とは違い、大学では学生は大人として振る舞うことが期待されています。学生部は彼らの主体的な学生生活のため、物心両面での助言や支援ができるよう努めています。

まず「学籍管理」とは、学生証の交付をはじめ、留学・休学・復学・退学等の管理のことです。平成十三年度の学科改組に伴う外国語学科と旧三学科の併存が、今年度も続きます。

「課外活動」は、勉強とはまた別の人格陶冶の場所となります。学生部はクラブ活動に対する助言、部室の管理指導、秋の学園祭（杏園祭）の指導を行い、学生の積極的な課外活動を支援しています。外国語学部には現在、約五〇のクラブや同好会があります。しかし、学生のニーズの多様化やアルバイト等に時間を取られるためか、これらの団体に所属する学生の数は少しずつ減っているのが現状です。授業以外の学生生活の受け皿を充実させるため、大学としても工夫を凝らしていかなければならないと考えています。

「福利厚生」としては、健康管理、学生相談、奨学金制度、キャンパスの環境・厚生施設の整備、下宿・アパートの紹介等があります。

八王子キャンパスには保健センターが設置され、杏林大学病院の医師が常駐しています。学内での突発的な事故や病気の際は、この保健センターを介して杏林大学病院で治療が受けられます。また、毎年四月には定期健

康診断を実施していますが、体育会系クラブの学生等、希望者は心電図検査も受けることができます。

楽しい学生生活のうちには問題の生じることもあるでしょう。成績や学業上の心配事、経済的な問題や人間関係の悩みなどには、担当教員やゼミ指導教授、学生課職員が相談に応じています。交通事故が発生した場合にも、学生が適切な対応を取れるよう指導しています。また、これは本来あってはならないことですが、学内のセクハラ防止委員会においても、学生の相談に応じています。

現在、外国語学部で扱っている奨学金制度には、日本育成会奨学金の他、杏林大学特待生・杏林大学奨学生など本学独自のものや、東京都育英奨学金、各種公共団体・民間育英事業団の育英奨学金制度があります。日本育英会でも採用枠の拡充、貸与月額の選択制、採用基準の弾力化などが図られています。不況の長引く中、ご両親の負担を少しでも軽くする方法を考えるのも、大学生の大切な努めです。学生部としてもこれらの奨学金制度を有効に活用して頂けるよう、配慮していきたいと考えています。

先行き不透明な時代で学生諸君の迷いや悩みも少なくありませんが、学生部では彼らが有意義かつ快適な生活を続けられるよう、活動を行っています。

教務委員会からご父母の方へ

教務委員長

教授 國松 昭

入学から卒業まで、学生の大学生活に最も関係の深い委員会が教務委員会です。もちろん学生委員会も関係深いのですが、どちらかというと学生の心と身体の方面が中心で、私たち教務委員会は学生の頭に関わる側面で日々努力しております。以下、私たちの仕事について少しご紹介したいと思います。

まず、各セメスター毎の授業計画を考えねばなりません。ご承知と思いますが、我が外国語学部は一年より、それまでの三学科制から外国語学科という一学科制に大きく学部制度を変更しました。むろんこの変更は専門性のない学生を目指すわけでは毛頭ありません。今までの英語・英米研究のような専門性を生かしつつ、学生が入学後自分の適性や希望を見いだしながら、主体的にじっくりと専攻や副専攻を選んでいけることを目指しています。そのためには、言語・情報分野、中国語・中国研究のようなあらゆる分野で、学生にとって魅力ある豊かな授業メニューを用意しなければなりません。三学科制と一学科制の両校があるここ数年は特に工夫が必要なのでいろいろ細かいことにも注意しなければなりません。

また、それぞれの授業の担当教員を決め、具体的な時間割を作成します。大勢の専任・非常勤の教員の時間割を組む作業は、専攻の必修科目が重なるとか、教養科目的授業が同一時間帯に集中しないよう隔々まで気を配って時間割を作るのはなかなか大仕事ですが、教務課職員と密接な協力のもとにこれを作成しています。

外国語学部では、一、二年のクラス担任制度、三、四年のゼミ必修のように、学生と教員の繋がりを重視していますが、そのための世話をし、具体的に決めていくのも教務委員会の仕事です。クラス担任は必ずそのクラ

スの授業に出ている教員が担当するようにしています。

また、各セメスター毎に期末試験を行います。その計画を作らねばなりません。さらに各担当教員から提出された成績は教務課がまとめてくれますが、それを審議した上で教授会にかけるのも教務委員会が当たります。学生が卒業に必要な単位を修得しているかどうかの判定、海外や国内での語学研修、観光業務研修などの計画・実行の責任、教職など資格を得るための種々の実習などにも、広く教務委員会は関わっています。繰り返しますが多くの様々な仕事は教務課職員と一体になってなされていることを確認して、まことに言葉足らずの思いが残りますが、教務委員会の報告とさせていただきます。



教職課程について

教職課程委員長

教授 諏訪内 敬司

教職課程は、日本の法律に基づいて設置・運営されている学校に、教員として勤務するために必要な教員免許取得の資格を与える課程です。本学部では、中学校と高校の一種免許状（英語、中国語、国語）取得の資格が得られるようになっていきます。

教員免許を取得するには、指定された科目の中から、専門教科の科目、教職科目及び教科又は教職に関する科目の修得が必要です。さらに基礎資格として、体育系科目、「日本国憲法」、外国語コミュニケーションと情報機器操作関係の科目も必要です（修得科目の詳細は教職課程ガイドブック参照）。

教職課程の中で最も重要なのは、教職科目のうちの「教育実習Ⅰ～Ⅲ」です。本学部では、中学高校に実習に行ける資格が厳しく設定されています。四学期次までの実習教科関連の語学の成績が一定水準以上であることと、英検、TOEFL、日本語力測定試験、漢字検定等、各種の資格試験でも一定水準の成績を取っていることが条件となっています。編入生が初めて教職課程を履修する場合は、履修科目数等の理由から次年度での教育実習はできません。

次に、中学校免許の申請をする際、指定の社会福祉施設と特殊教育諸学校で七日間の介護体験等をしたことの証明が必要です。詳細は四学期次にガイダンス等で説明し、申し込みを受け付けます（五、六学期次に実施）。さらに、教職課程のカリキュラムが変わり、教職関係の科目が大幅に増加され、特に、中学免許取得には教育実習が三～四週間必要となりました（高校免許のみは二週間）。

以上のように、教員免許を取得するには負担がきついで、教職課程を

履修しようとするには、かなりの覚悟が求められます。実際に教員になることも、子ども数の減少によって狭き門になっています。新規教員採用者の四分の三は既卒者ですので、教員を目指すには、就職浪人がある程度覚悟しておく必要があります。ただ、文部省は主要教科では一クラスを半分に分けて授業してもよいとする方針を打ち出しており、中学では英語など一部教科の教員は増員される見通しです。また、数年後には教員が大量に定年を迎えるため、教員採用の前倒しが始まっています。教員を目指す場合、中学と高校の両方の教員免許をもっている方が有利です。

なお、ガイダンスや手続き等の案内はすべて掲示によって行いますので、掲示板の教職課程コーナー（共通掲示板内）を毎日必ず見る癖をつけるよう、ご子弟にお伝えください。教職課程では外部機関への手続きが多く、締め切り期限を過ぎたら一切受け付けられませんので、掲示を見落とさないよう注意してください。ガイダンスに欠席したり手続きの締め切り間に合わなくて、介護等体験や教育実習ができない学生もいます。また、介護等体験や教育実習では外部機関に出掛けるので、身なり・服装、挨拶、言葉遣い、連絡・報告等について、社会常識を守るように厳しく指導しています。指導に従えない学生は杏林大学の学生として推薦できませんので、体験や実習には行けないことにしています。

外国語学部の ホームページをご覧ください

杏林大学の外国語学部はどんな学部？ いろいろな質問を受けることがあります。その内容は、外国語学部（と杏林大学）のホームページをご覧ください。ことごとくお答えになる場合がほとんどです。ホームページをご覧いただくことによって、外国語学部についてのご理解を深めていただければ幸いです。

まず、杏林大学の公式ホームページにお入りください。

<http://www.kyorin-u.ac.jp>

これで見ることが出来ます。この公式ページの「学部・大学院・看護学校」のコーナーをクリックして、さらに「外国語学部」をクリックしていただければ外国語学部のホームページに入ることが出来ます。

外国語学部の表紙には写真が九枚現れます。それぞれの写真をクリックしていただくと、「学部長の挨拶」「学部概要」「専任教員紹介」「ゼミ一覧」「キャンパス案内」「学年暦」「履修モデル」「オフィスアワー」「メールください」のページに入ることが出来ます。

ご覧になって、ご提案・ご意見・ご質問等ございましたら、ぜひ「メールください」でお知らせください。よりよいホームページ実現のために役に立てさせていただきます。お待ちしております。



杏林大学

外国語学部

Faculty of Foreign Studies

杏林大学トップへ



学部長からひとこと



学部概要



専任教員紹介



ゼミ一覧



キャンパス



学年暦



履修モデル



オフィスアワー



メールください

杏園祭(学園祭)

バス時刻表

J R 八王子から (→その他) 京王八王子から (→その他) 拝島から 杏林大学から 八王子へ 拝島へ 宮下から

教授 今泉 喜一

入試委員会より

教授 赤井 孝雄

四年制の大学の三割が定員割れと言われるほど厳しい状況のなか、外国語学部の入試に関しても決して例外ではありません。一〇年前には四三〇〇名を超える志願者でありましたが、それをピークに毎年十数パーセントずつの減少が続いていました。このような状況は全国的なことですが、それに対応すべく外国語学部では様々な改革を行ってきました。センター試験への参加、地方試験会場の増設、AO入試の実施など、いわゆる入試制度の改革だけでなく、少人数教育による外国語教育の徹底、カリキュラムの見直し、そしてこれまでの三学科制から外国語学科一学科への学部改組など、常に魅力ある学部作りを行ってきました。

こういった不断努力が実ったのかどうか、速断はできませんが、昨年度入試に限ってみると、その前の年度より約一割の志願者の増加という結果になりました。もちろんこの結果に安閑としていられるわけではありません。少子化時代のなかで、大学がおかれている状況はいぜん厳しいものです。そのため、学部だけではなく、杏林大学全体での入試改革が実施されることになりました。つまり、これまでのような学部別の入試改革ではなく、入学センターを中心に大学全体での入試の企画・立案、そして実施という新たな体制がつくられたのです。そしてこの入学センターの案（戦略）をもとに今年度入試が一月より始まるうとしています。外国語学部においては、推薦入試から適性調査がなくなり面接を中心とした試験となること、二月の一般入試が二回となり、同時に日本史・世界史・地理・政経・数学が選択科目に加わったことなどが大きな変更点ですが、もう一つこれまでに長年にわたって実施してきた地方試験会場が大学全体での入試見直しの結果、さいたま・横浜・町田・代々木・立川という首都圏中心の

試験会場へと変更されることになりました。

仙台・新潟・福島・松本・静岡の試験会場で受験を考えていた受験生には申し訳ない結果となりましたが、そのかわり外国語学部独自のものとしてAO入試の事前指導を仙台・新潟・静岡で実施し、これまでのこれら地域とのつながりをなくさないようにしようと考えています。外国語学部が実施しているAO入試というのは、FAXやメールを用いての何回かの事前指導を通して、志願者が外国語学部に入学するのにふさわしい人物かどうかを判断し、ふさわしいと判断



された志願者に、いわば「学部推薦」をする制度です。高等学校からの推薦を受けて受験するのが推薦入試であるのに対し、外国語学部から推薦を受けて受験するのがAO入試です。この「学部推薦」のための事前指導を前述の会場で実施し、受験生の利便性を考えてゆきたいと思っています。

以上が外国語学部の最新の入試情報ですが、今後ともご理解とご支援をお願い申し上げます。

就職と「現代日本社会特論」のこと

就職委員長

教授 小山 三郎

学生の意識の変化を、教員は思わぬところを知ることがある。

必修科目に「現代日本社会特論」という講座がある。この名称は、なかなか大きなものを感じさせるが、この講座にはキャリア・サポートセンターと一体化し、卒業後の進路をさまざまに考えさせる意図がある。そのために、各学期にいろいろな試みをおこなっている。例えば、「会社組織とはなにか」、「新聞経済面の数字の読み方」、「教養試験とはなにか」、といった内容を毎時間、外部講師に講義してもらっているのである。

当然のことながら、学部 of 授業とはその内容を異にする。「会社組織とはなにか」については、長年、新入社員教育にあたっている方に、「新聞経済面の数字の読み方」は、日本経済新聞の経済担当の論説委員の方に講義を依頼している。すなわち、学生諸君は、この講座によって日本社会の実際の「空気」に触れるのである。

ところで、この講座にはもう一つの仕組みがある。それは、多人数授業ではあるが、受講生に積極的に講義に参加してもらっていることである。どうしているのか。わたしのメールアドレス(skojama@kyorin-u.ac.jp)に、自由に意見をのべてもらうことである。同時に課題をメールしてもらうのである。

この試みにはどのような成果が見られたのであろうか。冒頭でのべた学生の意識の変化は、ここから直接に感じとるものとなったのである。当初、学生諸君もこの呼びかけにある種の「抵抗感」をもったらしい。しかし、現在、自分のこれまでの生き方の疑問点を語ったり、いま直面している悩みを語りはじめてきている。メールは、現在の学生にとって大切なコミュニケーションの手段になっている。顔が見えない、だからこそ率直に自分



キャリアサポートセンター

の考えを表現できるかも知れない。ある学生は、眠れない夜に自分は「誰なのか」を真剣に問いかけてきていた。そうした問いかけに対して、あくまで「私的意見」を前提に返事をする。その時、こんな書物があるよ、と推薦したりする。そうすると図書館で、書店で探してみますと返事がくる。

就職、進路を担当する者として、もっとも大切なことは、一方的に講義することではない。一人一人との会話が学生の考える道筋を示すものであり、これからのことを一緒に考えることだと思う。ある日、突然、卒業生が、いま、どこで、なにをしているのかをメールで語ってくれる。外国からのメールもある。外国語学部の学生諸君が活躍しているのを確信し嬉しくなる瞬間である。

「インターンシップ・1」について

客員教授 岩崎 公生

「あらゆる理論は実証されなければ仮説にすぎない」とは、昔から言い古されたことばである。今の時代も世の中が求めているものは、技術や資格であり、知識よりも知恵である。そしてそれらは実践をとおして身についたものである。つまり、大学の社会的使命は学生に対して理論を教えるとともに、理論実践の場をもつといういろいろな条件下の空間で提供していかなければならない。

一方で、二〇代社員の離職率が高いと言われて久しい。社会にとっても企業にとっても損失である。離職の最大原因は就職者と会社とのミスマッチにあるといわれている。したがって、このようなミスマッチを防ぐためには、あらかじめ就職先の業務内容や企業風土といったことを知っておかねばならない。それにはその中に入って身をもって経験するのが一番である。その方法として、アルバイト資格で入り込むのとインターンシップ制度を利用するやり方とがある。

アメリカにおいては、「産・官・学」のコラボレーションの歴史は長く、官の支援の元で産業界と大学はこれまでさまざまな共同研究を行い数多くの成果を世に送り出してきた。産業界は共同研究にとどまらず、大学生に対し理論実践の場としてのインターンシップを受け入れてきた。日本経済が未曾有の不況下にある現在、文部科学省と経済産業省が日本における「インターンシップ制度」の拡大を、産・官・学が一体になって行おうとしているのは当然のことである。

日本におけるインターンシップは、受け入れ企業のほとんどが大メーカーに限られており、サービス業においてはほとんどこれまで実例が見られないのが実情である。そして大メーカーにおけるインターンシップの内

容は、生産ラインでの単純作業であったり、物流ライン上の単純事務作業であったりと、およそアルバイトに近いものであるケースが多いようだ。

このような背景下で昨年八月、杏林大学と帝国ホテルとの間でインターンシップ制度が実施された。勿論帝国ホテルにとってインターンシップを受け入れたのは初めてのことであり、受け入れにあたっては両者の間で重なる打ち合わせが行われた。実習期間は二週間（実質一〇日間）であったが、一〇名の派遣学生にとっては実社会での体験を通して「就業意識の高揚」という副次効果が得られたようである。実際帝国ホテルという企業の就業規則の厳しさと、ラッシュアワー電車の過酷さを体験したことも収穫であったと参加学生が感想を述べている。二年目の今年度は八月一九日より二七日までの一〇日間、帝国ホテルでまた一〇名の学生がホテルのユニフォームを着用して臨時社員になる。昨年のように運がよければ、VIP玄関で外国の首相をお迎えするかもしれない。



広報委員会から

広報委員長

教授 金田一 秀穂

広報委員会は、杏林大学外国語学部を世間に広めるといいう仕事をしています。

杏林大学は、医学部・病院から出発した大学であり、医学部や病院の知名度は高いのですが、外国語学部となると、残念ながらまだ世間的に認知されているとは言えません。

外国語学部の学生諸君からも、「杏林大学です。」という、「ああ、お医者さんになりたいんですね。」とか、「杏林製薬ですか。」などと聞かれることが多いという声を聞きます。私自身も、「杏林大学で教えています。」という、「お医者さんですか。ちょうどよかった。ちょっと診てもらいたいんですが。」などと言われて、慌てる必要があります。

少子化時代を迎えて、各大学はさまざまな生き残り作戦を余儀なくされており、私たちの学部も否応なく、現実的に取り組みざるを得ません。こうした中で、外国語学部の知名度の低さは致命的です。今年から、各学部の入学試験に関しての一本化、大学全体の統一を目指す入学センターが発足しましたが、広報委員会もその一部として、高校訪問、オープンキャンパス、大学訪問、進学説明会への参加など、様々な活動を行なっています。より多くの高校生に杏林を知ってもらいたい、なんとか受験生を増やしたい、という願いからです。最近では地方の高校などからバスを仕立てて、都内各大学を見学して回るというようなことがあり、外国語学部にも多くの高校が見学に来てくださいます。そうした際には、入学センターを中心に、専任の先生方の協力を得て、授業見学などもしてもらっています。

ただ、こうした短期的な取り組みは、一時的な受験生の増加を見せることはあっても、必ずしも、大学のイメージアップに直結するとは考えてい

ません。

最も重要なのは、大学の教育内容や教育環境であり、学生諸君に「杏林に来てよかった。外国語学部に入ってよかった。」と心から思ってもらえるような大学、学部を作ることだろうと考えています。そうしたことが、御父母、学生諸君の後輩への紹介、勧誘につながり、外国語学部の名前を地道に広げていく最善の方法であると考えています。

いかがでしょうか。在校のお子様は、今の外国語学部に満足しておられるでしょうか。御父母の皆様はいかがでしょうか。

もし、何かございましたら、ぜひ、金田一までお知らせください。さまざまな御意見、御要望を伺っていくことで、よりよい外国語学部を作っていきたいと思っています。幸い、外国語学部は若い学部であり、まださまざまな取り組みが柔軟に出来ます。ぜひお考えをお寄せください。



オープンキャンパス

学長と学生の懇談会について

学生課 青木 栄一

去る平成一四年七月二日、学生から意見を聞き充実した学生生活・学内環境の向上等を図るために、長澤学長の諮問として、各学年を代表する9名の学生並びに、外国語学部滝本学生部長、樋田事務部長及び学生課職員が集まり懇談会が行われました。

開催に先立ち、学長より「三年前にも同様の懇談会を開き学生の皆さんから直接お話を聞き、その際出された意見が現在一部取り入れられています。今回も希望や要望を聞き入れ生かして行きたいので建設的な意見を多数寄せていただきたい。」との話があり四年生から自己紹介を兼ねながら順次意見を出してもらい懇談会が開催されました。

意見や希望の中から主なものを記載します。

① 必修科目が多く、多数の学生が理解できる内容を照準にしていると思いますが、自分には既に理解している内容が多いので、もっと興味のある科目を多く習得できるよう必修科目を少なくするか、又は撤廃してもらいたいと思います。

② 図書館（D棟）二階の閲覧室が談話室状態になっています。開館時間も九時から始まり学生が使用する時間と合っていない。定期試験前などは利用者が多く、座れません。また蔵書の数も少ない状態です。

③ レポートの提出にコンピューターは必要不可欠ですが、コンピューター室の利用時間は午前九時から午後五時までとなっています。留学生はコンピューターの所持率が低いため、利用時間の延長並びに使用できる教室の増設を望みます。

④ 食堂の会計時間が掛かり過ぎてしまい、やっと買っても椅子が一杯

で座れません。晴天の日は屋外でも食事を取れますが、雨の日などは、非情に混雑してしまい座席不足となっています。

⑤ 提携されている留学先の大学が少なく限定されてしまうのもっと広げてもらいたいと思います。

⑥ 授業時間は九〇分と長く集中できないので、短縮してもらいたいと思います。

⑦ 一セメスター二四単位しか単位修得ができません。もう少し多く取れるようにしてもらいたいと思います。

⑧ 二四単位全てを「A」にする事は出来ないの、単位数が決まっていると自分の納得いく勉強が出来ません。

このような意見が学生から出され、学長から以下の様なコメントがありました。

※ 授業を行う上でのターゲットは中程度の学生に比重が置かれています。どこに置くかによって授業の内容が変わってきます。

※ 単位取得については、一セメスター二四単位と文部科学省で上限が定められています。それ以上の単位を習得したい場合は自由科目を自発的に取ることが出来ます。また、他学部への聴講もしやすい環境に成りつつあります。外国語学部では例えば社会科学部の経済学や簿記なども受講することが可能です。

※ 図書館の利用については団欒の場でも良いという学生もいて要望をまとめることは難しいことですが、最低のマナーは守る必要があります。

※ 食堂の料金の問題は、業者も春・夏・冬のシーズンは学生が殆どい

ない長期の休み期間にもオープンしておかなければならないといった問題があります。

※ 現在の九〇分授業を七五分位まで短縮することは可能ですが、他の先生方の意見を聞いて教授会での決定が必要になります。今後検討します。

引き続き、学長から学生諸君に対して質問がありました。

① キャリアサポートセンターは利用していますか。

「有効に利用しています。担当職員も非常に良い対応をしてくれています。」

「ロケーションが余り良くないので、もっと学生の目の付きやすい場所に変更してもらいたいと思います。」

「三年生ですが未だ利用していません。今後活用して行きたいと思っています。」

② 携帯掲示板（休講案内）の利用はどうか。

「パソコンより携帯電話の方が安価であり殆どの学生が持つて利用しているので有効な方法ではありますが、当日の案内は出ていませんでした。」

「通学に掛かる交通費も馬鹿にならないので出来るだけ早く情報を配信してほしいと思います。」

③ 春・秋入学を実施していますが秋入学者のハンディはありますか。

「秋入学者には留学生が多いですが、彼らからは特に聞いていません。」

「その期に落としてしまった教科を次の期に取れません。セメスター制度の必要性があまり感じられません。」

最後に、滝本学生部長より、「本日の懇談会は時間を長く設定出来ずもっと話したことも有ったと思いますが、今回話しきれなかったことや又今後何か改善点などが有れば直接連絡していただき、楽しい学生生活を過ごしていただきたい。」と締め括られ、閉会となりました。



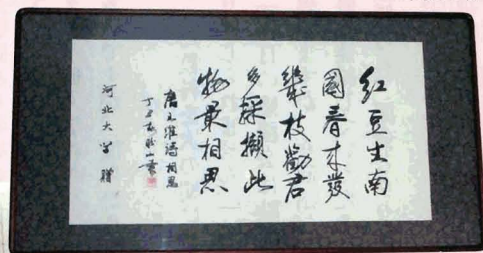
スケッチ



グラウンドの桜



希望の桜



河北大学より寄贈の書

春



皐月の季節



外国語学部玄関

杏林大学四季風情話

春……桜が舞い。山は微笑んでいるようです。すべてが一新し、私たちを酔わせます。最高気温が40度に達するといつても、木陰に座れば森の香りが風に乗り、心に染み入ります。杏の実が醸し出す杏酒の香り、絶え間ない鳥の鳴き声は、本当に「心地良い」。あつ！蛇！日暮れ時、蛇も暑さを凌いでいるところ、大変失礼いたしました。

夏



杏林名物の杏



仲間との時



ジャクナゲの花

キャンパス



紅葉の路



杏林坂



秋

秋……箱根の山に行かなくても、山二面の紅葉は競い合っているかのように美しく見事です。テニスコートにいる学生が誇らしげに言います。「軽井沢で生活しているような自然がある贅沢な学校です。」

冬……「東京晴、府中曇、八王子雨、杏林雪。」と詠われるように、杏林の人たちは充分天気の変動に備えて学校に行きます。冬の杏林で恋人と夜景を見るなら、校舎5階、暖房の効いた中からが良いでしょう。鳥も街の灯りを見下ろす程ロマンチックです。

(林 恵瑩)



秋入学式



杏林雪景色



2001年度卒業生寄贈のベンチ



校舎D棟

冬



未来へ跳ぶ卒業の日



先生との一時

国際交流センターの活動

国際交流センター
国際交流課課長

五十嵐 一夫

平成一四年四月より、従来ありました、国際交流研究所と国際問題研究所を發展的に解消して、「本学の学術的かつ国際的な総合大学の特色を活かし、本学と海外の大学、学術研究機関等との学術・文化及び人的交流を図り、もって人材の育成に寄与する」ことを目的に国際交流センターが発足いたしました。また、杏林大学別科につきましても、設立の趣旨の基、国際交流センター附属別科として生まれ変わりました。来年よりは定員も二〇名から八〇名に増員されます。

センターの業務については下記の通りです。

- (1) 国際交流の調査
- (2) 本学と海外の大学・学術研究機関等との学術・文化交流について
 - ア 海外の大学・学術研究機関等との協定締結及び実施について
 - イ 外国人教員、研究者の受入及び本学教職員の海外派遣について
 - ウ 留学生（別科生を含む）受入れについて
 - エ 本学学生の海外留学、海外研修について
- (3) 外国人留学生の日本語教育・研修等について
- (4) 外国人留学生の福利厚生について
- (5) 学生の留学相談について
- (6) 短期語学研修について
- (7) 外国人留学生に対する学内外の奨学金について
- (8) その他国際交流について

以上が国際交流センターの業務です。具体的には、杏林大学の国際交流の

窓口が、国際交流センターに一本化されたと同時に、今後の国際交流に対して意気込みを示したものです。国際交流センターの運営に係る基本事項の審議は、学長の基に設置された国際交流委員会が行います。

では、具体的に国際交流センターをご紹介しますと思います。

センター長は外国語学部長の藤井明教授、副センター長兼別科長は外国語学部の河原崎幹夫教授が着任されました。

また、センターの発足に伴い、国際交流課が新たに設置され課長以下四名の課員が配属になっております。場所は、本年九月より留学生も一般学生も別け隔てなく平等に接したいとの考えから、I棟一階のフロアーを改造し、学生課の隣りに設置されております。

現在、留学生三六三名（一〇月一日現在）が在籍しておりますが、生活環境の違いによるトラブルから、進路の相談、アパートの相談を多く受けています。留学生に係る業務として、奨学金の申請・受給等の事務扱い、別科の入試事務・ビザの入国管理局への申請等があります。また、交換学生・派遣学生・短期語学研修の受入れ請け出しの他、協定校への連絡、協定内容の見直し等他、外国より本学を訪問されるお客さまや、本学より訪問される教職員のスケジュール等の調整などに追われております。事務室内では日本語と特に中国語が飛び交うことが、日常茶飯事になっています。協定校に付いては、別紙一覧の通りです。

学術交流協定大学一覧

2002年10月1日現在

	国・地域	協定大学名	協定年月日	備考
1	アメリカ	メイヨー医科大学	1976. 9. 2	
2	ブラジル	サンパウロ州立大学	1981. 11. 12	
3	アメリカ	メリーランド大学医学部	1986. 8. 1	
4	香港	香港中文大学	1992. 8. 31	☆
5	オーストラリア	ウーロンゴン大学英語センター	1993. 11. 8	*
6	イギリス	イーストアングリア大学	1993. 12. 14	*
7	韓国	ソウル保健大学	1994. 12. 10	☆
8	オーストラリア	ウエスタンシドニー大学	1995. 11. 13	☆
9	中国	河北大学	1996. 6. 3	☆★
10	台湾	国立政治大学	1996. 6. 17	☆★
11	インドネシア	パジャジャラン大学	1996. 9. 19	☆
12	イギリス	セントラルランカシャー大学	1998. 3. 18	☆
13	ベトナム	ハノイ国立大学社会科学人文科学大学	1999. 3. 1	☆
14	韓国	高麗大学校	1999. 3. 12	☆
15	台湾	南台科技大学	1999. 11. 3	☆
16	ペルー	カイエターノ・エレディア大学	2000. 5. 2	☆
17	タイ	マヒドン大学	2000. 5. 23	☆
18	韓国	建陽大学校	2001. 1. 17	☆
19	韓国	韓瑞大学校	2001. 10. 1	☆
20	デンマーク	コペンハーゲン大学	2001. 10. 4	☆
21	イギリス	マンチェスター大学	2002. 4. 16	*
22	メキシコ	モレロス州自治大学	2002. 4. 30	☆

* 本学学生の受入のみ

☆ 交換留学可能な大学

★ セメスター留学可能な大学

新装なった
国際交流センター

黒龍江省での研究と「仕事」の日々

助教授 本田 弘之

わたしは二〇〇二年四月より、一年間の研究留学の時間をいただき、中国・黒龍江省に滞在しています。

みなさんも中国が多民族国家であることはご存じだとおもいます。中国には認定されているだけで五六の民族が居住しています。そして、中国は「少数民族教育」に関して、制度についても運用面についても世界でもっともすすんだ国のひとつなのです。この民族教育を担うのが「民族学校」と総称される学校です。中国には幼稚園から大学まで「ふつうの学校」のほかに「民族学校」という系列の学校が存在しています。少数民族の子供は、この民族学校で教育をうけるか、ふつうの学校で教育をうけるかをえらぶことができます。わたしは以前から、中国東北地域をフィールドとして民族教育と言語教育を研究していたので、この研究留学も黒龍江省をえらんだのです。

ふつう研究留学では、海外の大学に席をおかせてもらい、その大学のかで研究します。しかし、わたしは大学ではなく、教育行政機関である黒龍江省教育学院に席をおいています。そして、教育学院から省内各地の民族学校へ派遣してもらい、民族教育の現場で研究しています。しかし、民族学校に派遣してもらうといっても、ただ「研究しにきました」というだけでは、学校側にとっては「迷惑なお客さん」でしかありません。なにか、こちらもお役にあたるような「仕事」をしなければ、居場所がないのです。ところが、さいわいにして黒龍江省の民族学校は外国語と

して日本語教育をしているところが多いのです。日本語教育はわたしのもう一つの専門であり、また、長年、中国の日本語教育を支援する仕事をしてきましたから、派遣された学校で日本語教育のお手伝いをすればじゅうぶんに「おかえし」ができるわけです。

そんなわけで、わたしはいま、日本語の先生として民族高校の教壇に実際に立ち、授業をしています。わたしは一四年前まで高校教師をしていたので、ひさしぶりに高校教育に復帰することになったわけです。また、地域の先生をあつめて日本語の勉強会も開いています。この仕事はなかなか楽しく、三ヶ月がすぎたいまでは、派遣されている学校だけではなく、周辺の学校からも「こちらにも来て公開授業をやってくれないか」という注文が舞い込むようになり、けっこう忙しく「仕事」をしています。学校のなかには、わたしが「日本語教育の支援のために中国に派遣された人間」だと勘違いしているところもあるようです。とにかくこうして、ちよつとふつうの留学とは違うわたしの「教壇に立つ」留学は、当初計画していた以上の成果をあげ、順調にすすんでいます。

(二〇〇二年六月二九日 黒龍江省鶏東県より)

イギリスの仏滅

九月十五日は仏滅だった。

杏林大学のオックスフォード語学研修の手伝いを終えて、その日はロンドンから学生一名を連れて、マンチェスターへ向かう手はずになっていた。翌日から始まる語学・インターンシップ研修に参加するためである。学生と見送りの添乗員と一緒に宿舎を出て、ロンドン・ユーストン駅に着いた。添乗員にお礼の言葉を述べ、「東京で再会しましょう」と別れの挨拶をして、学生と私は列車に乗り込んだ。駅でもらった時刻表では、あと三十分あまり時間がある。昼過ぎでもあり、二人ともおなが空いていたので、学生を列車内に残し、私は駅のコンビニでサンドウィッチを買いに行った。これが悲劇のはじまりだった。数分後、ホームまでスロープを降りてみると、私の目の前で列車が走りだしているではないか。「どうしよう」。しばらく呆然自失であった。私の帰国便のチケットが入っている荷物も学生とともに車内にあるのだ。気を取り戻して、駅員に「次の列車はいつ出るのか」とたずねた。「三十分後だよ」との答えであった。三十分後の列車は時刻表にのっている列車で、今しがたホームを出たのは臨時列車だった。その日は日曜日であった。イギリスでは週末に鉄道工事をするものがあり、日曜日のダイヤは乱れていた。マンチェスターに向かうにしても、まづ各駅停車の列車で数駅行き、そこからバスに乗り換え、特急の発車する駅にたどり着く、といった複雑なシステムなのである。よほど旅馴れていないと、まごついてしまう。

マンチェスターでの研修責任者であり、何を置いても学生の身柄を確保



教授

楠家 重敏

オックスフォードにて

せねばならない。次の列車で学生を追いかけた。各駅のホームをくまなく見て、バスコーチでも慎重にいちべつをした。最後は特急の始発駅である。そこに学生がいなければ、大ごとである。ところが、そこにも学生はいない。「大変だ」。駅で不安気にしていると、駅員が「大丈夫か」と聞いてくる。深呼吸をして、携帯電話でさきほどの添乗員に連絡をとった。事態を説明しようとした矢先、「お待ちしていました。学生をロンドンの駅で確保しております」と言ってくれた。学生は次の駅で降り、ユーストン駅に引き返して、添乗員とコンタクトを取ったのである。安堵の思いで、腰が抜けそうになった。とりあえず学生はロンドンの宿舎に戻り、翌日あらためて列車で目的地に赴くことになった。一件落着である。

ところが、修羅場はまだあった。この学生のほかに、研修を受ける十人の学生が東京からロンドン経由で飛行機に乗りマンチェスターに来ることになっていた。マンチェスター大学の係員と空港で彼らを出迎えねばならなかった。急ぎエアポートに向かった。空港で午後七時に彼らと待ち合わせしていた。今日ロンドンであった一件を話して、彼らの了承をいただいた。学生が到着するまで、いろいろな話をして、時間をつぶした。もう一時間以上たっている。みんな、これはおかしいと気づき始める。イライラして、ロンドン・ヒースロー空港に電話をいれた。そうすると、杏林大学の学生が乗るべき国内線の飛行機がまだ彼の地を出ていない、というのだ。このとき、いろいろな情報が錯綜していた。確実な情報を整理すると、(1)学生が入国審査に手間取って、乗り継ぎ便に乗りなかつた(あとで判明したの

は、入国審査官が二人しかいなかったことが原因で責任は空港側にあった。(2)ほかの団体客が急遽はいり、四人分(五人分との説もあった)しか空席がなく、残りの学生はロンドン滞在になりそうだと、とのことだった。現地の情報が入り、学生はキャンセル待ちをして、ともかく全員が最終便に乗れたのである。午後十一時すこしまえ、学生の姿を見つけた。「ご苦労さん」と声をかけたら、学生のなかには涙ぐむものもいた。無事の到着を互いに喜びあった。ともかく学生は大学のバスに乗り、各自のホームステイ先に消えて行った。

まだ、つづきがあった。私はホテルの予約はしていたものの、急いで空港に來たので、チェックインをしていないのだ。へたをすると、予約が取り消されているかもしれない。責任者として、学生の身柄の確保を第一に考えていたので、これは仕方ないと考えた。すぐさまタクシーで市内のホテルに向かう。三十分くらいで現地に着いた。案の定、ホテルの入り口には鍵がかかっていた。必死にドアをたたき、中にいれてもらった。「レイト・チェックインだけど、大丈夫でしょうか」と尋ねてみる。「心配するな、いま手続きをしている」との返事をいただいた。ホッとして、部屋にはいった。風呂に入って、今日の疲れを取ろうとした。突然、電話ベルが鳴った。東京からの問い合わせだった。「学生は無事マンチェスターに着いたのか」。ロンドンの空港で乗り継ぎ便に乗れなかったことを学生が自宅に携帯電話で連絡し、東京では大騒ぎになっている由であった。私は今日あったことを全て話し、「無事に学生がマンチェスターに着きました」と誇らしく伝えた。

翌日、ロンドンからの列車で、くだんの学生がマンチェスター駅やつてきた。彼女と感激の対面をして、写真を取っておいた。最後に自分のバックも手に入れた。めでたし、めでたし。あとで、手帳をみたら、九月十五日は仏滅で、十六日は大安だった。

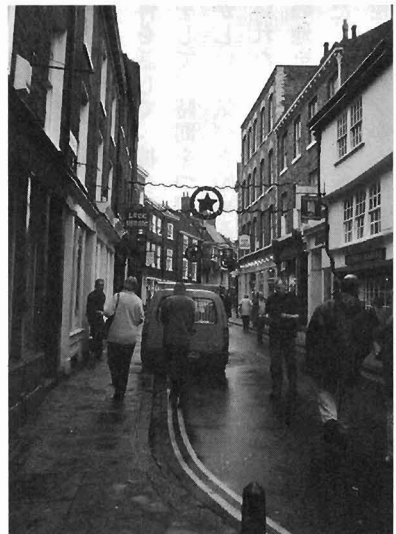
▶ ロンドンの地下鉄の車内



▶ ウォーリック城にて



▶ ヨークの街角



◀ ロンドン・ヒースロー空港



十九年ぶりの中国

教授 金田一 秀穂

十九年ぶりに中国に行ってきました。北京の近郊の町、保定市にある河北京大学で、日中国交三十周年を記念した日中経済と社会変動のシンポジウムが開かれ、それに参加してきました。

十九年の間に中国の大変化をさんざん聞かされていて、少しいやだったのですが、行ってみたら、やっぱりすごく変化していて、でも、とても嬉しくなっていました、すっかり感動して帰ってきました。

空港から町までの道沿いには高層ビルやマンションが立ち並び、タクシーが町を駆け巡っている。レストランの店員はとても愛想よく礼儀正しく迎えてくれ、商店の棚には何種類もの果物が並び、スーパーでは紙オムツまで売っている。

こんなことは、かつて十九年前には、ゼッタイ考えられないことでした。北京空港はどこかの田舎の駅舎程度の建物でした。ほこりっぽい道を、馬車と自転車と、人を満載した汚れたバスやトラックが走るだけ。食堂のお姐さんは無愛想。自動車は、外国人の乗ったハイヤーだけ。しかも上海という中国製の、やたら重そうな車。果物売り場には干し柿がなく、たまにみかんやりんごが入荷すると、みんな奪い合いの大騒ぎがありました。どこのデパートに行っても、下着のパンツさえ買うことが出来ませんでした。

本屋には、入ってすぐのところに、毛沢東語録とマルクス主義の本だけが置いてあったものです。売り場は広かったですが、種類はあまりおおくありませんでした。客と言えばちらほら。みんなむずかしそうな顔をして

いたものです。今はそんな本はどこにあるのやら。一番目立つところには、「チーズを誰が食べたか」の翻訳本が山積みになって、大ベストセラーになっているという話でした。親子連れが楽しげに本を選んでるにぎやかな店内を見て、本当にいい国になったのだなあと実感しました。

一九八三年に、ぼくは大連の大学で、日本に留学する中国人学生に日本語を教えていました。当時、文革が終わったばかり、急速な近代化を目指した中国政府は、全中国から大学院入試で好成績を上げた上位数百人を日本やアメリカに留学させるプログラムを作り、その連中を長春や大連に集めたのです。彼らは、当時の中国最高の若い頭脳でした。その前もその後も、あんなに優秀な人々にあったことがありません。ちょうど、明治時代のお雇い外国人が北里柴三郎や森鷗外を教えるようなものだったとおもいます。彼らの中から例えばノーベル賞学者が現れたとしても、ぼくはあまり驚かないだろうとおもいます。

彼らは、半年の日本語研修の後、無事全員が日本の大学院に入り、五年で博士号を取得しました。しかし、彼らのうち、中国にすぐ帰るといふ人はあまり多くありませんでした。彼らが日本の大学や研究所で得た最先端の知識や能力を生かせる場が、当時の中国にはなかったのです。彼らは結局、日本やアメリカの研究所や大学に就職して行きました。

しかし、九〇年代に入って、彼らがぼつぼつと中国に帰って行き始めたという話を聞きました。いつのまにか、ほとんどの人たちが、中国に帰っていました。

そして、今回。十九年振りに訪れた中国の変わりようを目にして、真っ先に思い浮かべたのは彼らのことでした。あの貧しかった中国を、こんなにも豊かな国に変えた、その最前衛で働いたに違いない彼らのこと。

もちろん、この変化を起こしたのは、全中国の人々の力だったとおもいます。しかし、ほくが大連で教えた彼らが、その中でもかなり力あったことは、疑えません。

そして、僕の仕事もまんざらでもない、新しい中国の歴史にほんの少しでも参加できたのではないかと、勝手に信じることにしました。日本語の教師をしていて、こんなことは初めてです。

日本語を教える事は、両国の懸け橋になる、世界平和に役に立つ、進んだ近代科学を取り入れるのに役立つ、とか、そういうことを言われていても、そんなことを考えたことなど一度もありません。ただただ、やっていて面白いから教える、習いたい人がいるから教える、ということだけでした。社会発展や文化交流は単なる美辞麗句にすぎないと信じていました。でも、そうじゃなかった。本当に、役立ってしまうことがあるのだということ、を、まざまざと見せつけられたようでした。

保定の町には巨大な噴水があります。夜になるとライトアップされ、大音響の音楽につれて、その噴き上がる水の形が踊るように変化していきます。この費用が一晩いくらかかるか分かりませんが、たぶん大きな金額であるに違いありません。それを保定市が、コマースシャルでもなく何かの客寄せでもなく、無料で毎晩市民に公開しているのです。そんな無駄遣いが出来るほど、今の中国は豊かになりました。

失われたものは、数多くあります。四合院と呼ばれる中国の伝統的な民家は情け容赦無く、どんどん壊されています。北京の前門あたりの下町は、見る影も無いとのこと。しかし、それらを失うことを残念に思うのは、旅人の感傷にすぎないかもしれません。一つの国の貧しかったときと豊かになったときの両方をしっかりと見ることが出来た、その幸運を有り難くおもいました。



豊田（トヨタ）日産（ニッサン）五十鈴（イソズ）などがみえる保定市内のディーラー



北京空港



北京市内



北京市内のホテルから

——日本語学科海外研修報告書——

河北大学での日本語教育実習

教授 江田 すみれ

二〇〇二年度海外日本語教育実習は八月二十五日(日)から九月九日(月)まで、中国の河北大学で行った。参加者は日本語学科一三名、英米語学科一名の一四名(全員女性)であった。

河北大学は杏林大学の提携校の一つで、これまで数年にわたって中国語学科の学生が中国語研修や短期留学で訪問していた大学である。今年はそれに加えて日本語教育実習も引き受けていただいたわけである。教育実習をさせていただいたのは、その中国語学科と外国語学部日本語学科の二つの機関であった。

国際交流センターは留学前の予備教育を行う機関である。学生は半年から一年くらい在籍して言葉の教育を受け、海外の大学に進学する。杏林大学は受け入れ校の一つである。

実習の初日には学部の日本語の先生がモデル授業を下さった。テープを使った聴解の授業で、杏林の実習生は皆、その先生の授業の素晴らしさに感動していた。

杏林の学生達の授業は、最近の流行のゲームを取り入れた遊び心いっぱいのもので多く、河北大の学生達も大喜びして、楽しそうに日本語を使っていた。今年の実習生はよくまとまっていて、自発的に反省会をやってお互いに批判しあったり次の日の準備をしたりと、いい関係を保っていた。

Aクラスの学生とは大半が九月から杏林に来ることになっていたの、「また日本であいましよう」といって別れたが、Bクラスの学生とは、一緒に食事会をしたり、街へ出かけて遊んだりして、杏林の学生達はいい思い出をたくさん作ることができた。若い学生達がこのように仲良くなるの

を見ることができるのは、教員の最大の喜びといえるだろう。

第二週目は学部の授業に入っていた。外国語学部日本語学科は河北大学の中でも一番就職率の高い学科だそうである。コンピュータや経営などより日本語の方が就職率が高いというのがある。日本語学科の学生達は非常に優秀でやる気もあり、勉強の方法も身につけていた。

途中で、今年度中国で研修中の本田先生が黒龍江省から応援に来てくれ、非常に心強かった。

河北大学は、初級でも中級でも実習できたとし、落着いた地方都市でもあった



し、今回の研修地は非常によかったと思う。学生達の何人かは日本語教師になって中国で教えたい、などと感想を述べていた。



河北大学にて 太極拳をする学生



▲高速道路

▼古蓮花池（保定市）



留学生が見た歌舞伎

『日本の美、
歌舞伎の美』

中国留学生

朱^{シユ}
江^{コウ}

私は、将来、日本語教師になりたいという夢を抱いて、昨年四月に杏林大学の外国語学部に入學しました。なぜ私が日本語を専門に選んだかという、やはり日本文化が大好きだからなのです。

日本文化に強い興味を持つようになったきっかけは、日本にいる友人からもらった一枚の絵葉書でした。表は中尊寺の金色堂でした。世界にこれほど美しいものがあるのかと、そのいいような美しいさに心をひかれました。

日本に来て、テレビや本などを通して、日本文化に触れる機会が増えました。最初は日本の古い建築物に目をひかれて、毎週「古寺をゆく」を買っていました。経済的な理由で、テレビでの鑑賞に変えました。このテレビ鑑賞のおかげで、歌舞伎にも出会いました。衣装もきれいで、歌も踊りも美しい。その絢爛たる舞いに魅せられました。しかし、セリフが難しく、分からないことがいっぱいありました。杏林大学には幸い良いゼミがありました。伝統芸能に造詣深い先生のゼミがあったんです。先生は学生に日本の伝統的な文化に興味を持たせるために、毎年、国立劇場の歌舞伎鑑賞教室に連れて行きます。私は去年も参加いたしました。演目は「近江のお兼」と「文七元結」でした。行く前には「鑑賞講座」を開いて、歌舞伎の音楽、役柄、俳優、あらすじなどを説明してくださいます。観劇といえ、小さいころ、夏休みに田舎の祖母の家で過ごしたとき、雨乞いのあと、神様に奉納した影絵芝居を見てから、二〇年ぶりでしょう。その時の気持ち

を振り返って、わくわくしておりました。開演に先立ち、鑑賞教室では、俳優のひとり、舞台に出て、セリ・大セリ・スツボン（花道のセリ）・回り舞台：などの舞台機構を見せてくれます。そして、下座、義太夫、ツケ、しぐさなどの説明もあります。私の国でもこのようなことをやってくれたら、若者の京劇離れが食い止められるだろうと思いました。

今年の歌舞伎鑑賞教室は、「仮名手本忠臣蔵五段目・六段目」でした。私は、歌舞伎や忠臣蔵などに関しては、少しですが書物を読んでいるので、かなり分かるだろうという自信を持っていました。

鑑賞当日、少し早めに家を出て、新宿駅でみんなと落ち合い、先生のあとにしたがって、半蔵門まで地下鉄で行き、日本語教育関係の本を出版・発売する総本山である『凡人社』に見学に行きました。

この日の主演俳優は、中村扇雀、片岡孝太郎などで、中村扇雀は女形ですが、今度は立役なのでこれも楽しみでした。「与市兵衛住家勘平腹切り」の場は悲劇で、俳優の演技に感動しました。

鑑賞後、新宿のシャブシャブ屋に連れて行ってもらい、食べ放題のしゃぶしゃぶを食べながら、「勘平の腹切りは早すぎではないか」と皆で残念がりました。また、「主君のあだ討ちのために自分の妻を遊廓に売って、いかに昔のことでも、考えられない」などと話し合いました。学生の中には、「主君の子どもを助けるために自分の子どもを身代わりにする」という悲劇」を卒業論文の題目に選んだ女子学生もいます。

歌舞伎のおかげで、日本の伝統的な美が楽しめるばかりでなく、文化や歴史についてもいろいろ考えることができました。来年も再来年もこのような機会があったら、また参加したいと思っています。



歌舞伎座にて 向って左端が朱江君

がんばる卒業生

日本のサッカー記者として大活躍

韓国留学生OBの盧さん

日刊スポーツ新聞社の記者 盧載鎮さん

(ノ・ゼジン・三三歳)は、今回の日韓共催のワールドカップサッカーで韓国での取材を中心に大活躍した同社のサッカー担当の記者です。

盧さんはソウルの出身で当地の大学に一年在籍した後一九八八年に來日、日本語専修学校に通った後本学の外国語学部日本語学科に入学。一九九六年に卒業後、日刊スポーツ新聞のスポーツ部記者となり大相撲を担当した後、サッカーのJリーグ横浜Fマリノスの担当記者になって、ワールドカップのフランス大会などの取材を経て今年の日韓共催ワールドカップの韓国取材記者として現地に二ヶ月にわたって派遣されました。特に日本チームが敗退した後韓国チームが準決勝まで勝ち進み、日本国内でもアジア代表としての韓国チームの戦いぶりに大きな関心が集まったことから、韓国国民の熱気を伝える盧記者の記事が連日署名入りでトップを飾るなど華々し

く活躍しました。

盧さんのような純粹の外国人留学生が、日本語の記事を書くことを仕事とする国内紙の新聞記者になること自体大変珍しく、採用試験で何度も筆記や面接を経て難関を突破したと言う知らせに当時外国語学部で指導した先生方も驚いたということです。盧記者の話では、新人時代書いた記事に随分デスクの手が入ったものの、そのうちに日本語で記事を書くのが一向に苦にならなくなったという事です。入社当時上司のデスクからは、外国人としての扱いは一切しない、記事のレベルも日本人と同じに見なすと宣言され、大変厳しく指導を受けたそうです。その結果、日本語の文章を勝負にする記者として自立できたと話しています。

次は盧さんが担当した記事です。

果して僕は、いま目の前で起きた事をうまく伝えることができるだろうか……

盧 載鎮

果して僕は、いま目の前で起きた事実をうまく伝えられるのだろうか。

記者生活七年目にしてこれほど感激した試合はない。つい二日前にスペイン相手に必死で戦うアイルランド代表の姿に心打たれたばかりだというのに……。まさに目の前で奇跡が起きた。しかし「奇跡」の二文字で片付けるのは、必死でグラウンドを駆け回った選手に申し訳ない。僕は韓国代表の長期間に渡るトレーニングや闘志、結束力を知っていたので「奇跡」という言葉を使わないことに決めた。六月十八日、韓国・大田(テジョン)W杯競技場。W杯決勝トーナメント一回戦でアジアのサッカー途上国・韓国が、優勝候補・イタリアを破った。世界一の堅守を誇るカテナチオ(イタリア語で門にカギをかけるの意)を二回もこじ開けた。

完全なイタリア・ペースで試合は進んだ。

「先制して守備を固めて逃げ切る」。W杯で数々の一〇勝負を演じ、三回も優勝しているだけに、誰もがそう思っていた。ビエリらの先制。後は守り切るだけだった。



しかし後半ロスタイムに「事件」が起きた。豊富な運動量で粘り強い攻めを見せた韓国がまさかの同点ゴール。締め切りの関係で、すでに同点ゴールの二分钟前に「イタリア無難にベスト八進出」の原稿を出していた僕は、手直し作業そっちのけで記者席で派手なガッツポーズと、奇声を上げて喜んだ。前列に座っていたイタリア記者団からは大きなため息とともに彼ら特有の右手を振り払うように上げる、怒った時のしぐさが見られた。

延長後半にはゴールデンゴール。ゴールネットが揺れるのを自分の目で確認したが、

一瞬「まさか」と戸惑った。世界的GKブフォンが跪いてボー然と天を仰ぐ。W杯四回の出場のDFマルディーニ主将は首を横に降りながら、目の前の光景を必死に否定しようとした。サッカーに関しては、アジアを軽視し続けてきたイタリア記者団は言葉を失っていた。誰かのせいにしないとプライドが許されない。翌日、イタリアの新聞は決勝トーナメント一回戦敗退の原因をそろって主審のミスと断定する幼稚な反撃でプライドを守ろうとしていた。

アジアのサッカーが六六年イングランド大会の北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）以来、三六年ぶりにW杯ベスト八に進出した。韓国は準々決勝でも無敵艦隊・スペインにPK戦までもつれる死闘を制して、アジア勢としては初の準決勝に進出した。街には赤いTシャツを着た応援団があふれていた。夜明けまで町中に響き渡る車のクラクションで睡眠を邪魔されたが、今でも耳に残る心地よい響きだった。

感無量。僕は四年前のフランス大会も取材している。世界相手に一勝もできなかった日本の敗退していく姿を目の当りにした。当時、日本代表を担当していた僕は、韓国代表の戦いは現地のテレビ中継でしか見ることができなかった。

オランダ相手に無気力の「〇―五」負けは

忘れられない。一瞬、当時の苦い思いがよぎった。「思えば、そういう時代もあったね」。韓国人として、アジア人としてそう思える時代が来ることを願う。

初めての共催。お互いに歴史的な背景で心に傷を持っている。大会前には心配する声も多かった。実際、国民性の違いで、準備段階でトラブルも多かった。教科書問題などで一時、両国組織委員会の連絡が断絶される時期もあった。数々の問題を抱えたままの開幕。しかしそのすべては韓日両国の決勝トーナメント進出の快挙で打ち消された。しかも日本が敗退した後も、日本のファンが国立競技場に集まって韓国を応援する姿が韓国全土に報じられ、韓国国民は感動を覚えた。両国国民がサッカーを通じて一つになった。

僕は一九八八年に来日。日本語学校などを経て九一年に杏林大学外国語学部日本語学科に入学した。九六年に卒業と同時に日刊スポーツ新聞社に入社。同年十月からサッカー担当を務めている。いろんなことがあった。世間でよく言われる「外国人には部屋を貸してくれない」という不利益に遭ったことがある。大学では江田先生、今泉先生という素晴らしい恩師に恵まれた。一四年間、いろんな日本人と出会った。W杯は問いかけに過ぎない。これからは我々が、韓日の新しい時代を築いて行く番なのだ。

台湾に留学して

私は二〇〇一年秋から二〇〇二年夏まで台湾の国立政治大学に留学させて頂きました。

実際台湾についてあまり知らなかったので、留学が決まってから調べ始めました。初めは繁体字だから読み辛いだろうと思っていたのですが、日本人からしてみると複雑になっただけでわかり易いほどでした。逆に、簡体字の意味を知らなかったこともしばしば。環境に関しても、夏が長いこと以外は日本と似ているので、とても過ごし易かったです。

私が通っていたのは学内に置かれている言語センターと、大学の授業でした。言語センターにはたくさんの外国人がおり、みな勉強熱心で雰囲気もよかったです。それぞれレベルに分かれており、授業もレベルにより違います。クラスは六、七人程度の小クラスで、大きな机に先生と一緒に座り授業を受けます。わからないところもすぐ答えてくれますし、質問もしやすいです。三ヶ月に一度、課外学習があり、校外に出て博物館を見たり、お茶を飲んだりもしました。とても良い思い出になりました。

大学の授業は、日本とほぼ同じ形式の授業ですが、私は日本の大学より授業に活気があると思いました。とにかくみんな真剣で、まるで授業を楽しんでいるようにも感じられました。ただ、大学の授業は言語センターの授業と違って難しく、最初のころは内容すらわからず、戸惑ってしまいました。みんながやさしく解説してくれたおかげで、半年後には、半分以上聞き取れるようになりました。

休日には台湾の友達と遊んだり、週末に旅行にも行きました。日本では

体験できないことなど、自分がどれだけ世間知らずだったかを身にしみて感じました。他の国から見た日本は自分で描いている日本観と違い、新鮮にも感じられ、毎日がとても充実した一年でした。

今思うことは、この一年の経験をどれだけ活かせるかだと思います。語学に終わりは無いといいますが、これからもあのときの感動を忘れないようにこれからも努力していきたいと思っています。



留学の仲間と（前列右が筆者）

中国語学科四年

安藤 勲

時間の有効活用と チャレンジ精神を

内藤 俊朗



新しい大学生活を送るに際し、高校時代における時間の使い方との決別が必要に思われる。

我が子を見ていると、今までの拘束から解放され、自由な時間を謳歌しているのがうらやましく感じる面と、何と時間の使い方が下手なのかと考えてしまう。自分自身の大学時代を振り返っても、自慢できるような学生生活を過ごしてきたとは言えないが、もう少しメリハリのある生活だったような気がする。

外国語学部での勉強を通じてボーダレスを

実感し、異文化に積極的に触れ、出来れば留学（短期・長期を問わず）経験を通じて外からの日本を見ることにより日本の良い面・悪い面を再確認し、大いに視野を広げて欲しい。また、社会へ出る為の準備期間であるこの時期に、いろいろなネットワーク作り・人間関係の基盤造りを是非お勧めしたい。自分自身の狭い枠内だけで活動するのではなく、クラブ活動・サークル活動・学習（特に語学及びゼミ活動）・アルバイト等でタテ社会・ヨコ社会の人間関係を学んで欲しい。

大学時代はあつという間に通り過ぎてしまうものである。一人一人が充実した大学生活を送るためにも、常にチャレンジ精神溢れる一日一日であって欲しいものである。

そのような学生が増える事を願いつつ、大学の環境作りに微力ではありますが協力したいと思います。



編集後記

杏林は、中国の三国時代の名医董奉の故事に因む医師の美称で、八王寺キャンパスにも杏の樹が沢山植わっている。四月には美しい花で新入生を迎えてくれ、時期がくると見事な実をたわわに実らせる。このキャンパスには梅の木も数本あって、春には他に先がけて花開く。雪中から清らかな香を発する梅は、古来、松、竹とともに三友とよばれ好まれていた。先日の大雪の時も、雪の積もる枝の先で梅のつぼみは確かに動き始めていたのである。◆漢字の読みには音と訓がある。「松」の音はシヨウで訓はマツ、「藤」の音はトウで訓はフジである。「杏」はどうか。音はキヨウ・アンである。でアンズが訓ということになるが、じつはアンズは「杏子」の音読みである。では「梅」はどうか。バイ・マイが音でウメが訓のようであるが、ウメについては二説あり、その一つは、古来中国の薬とされた梅の黒焼き「烏梅」の中国語音「ウーメイ」がつづまったもの、もう一説は、「梅」の中国語音「メイ」を発音する際、唇を固く閉じたところから始めるので「ウメイ」と聞こえ「ウメ」となったもの。古語でムメというのと同じ。この現象は、「馬」の中国語音「マー」からウマの音ができたのと同じである。純粹の訓読みがないものは、中国から輸入されたものということになる。◆クイズを一つ。杏と梅ではどちらが値段が高いか。答えは杏である。ことわざに「アンズよりウメは安し」という。

編集委員

中 村 信 幸（委員長）

ピーター・マクミラン

江 戸 淳 子

五十嵐 一 夫

J E C
第15号

発行年月日 二〇〇二年二月二八日

編集発行人 杏林大学外国語学部杏会

〒二三、八五六 東京都八王子市宮下町四七六

電話 〇四二六（九二）八二二四

印刷所 有限会社 シーズ

〒二六、〇〇二 東京都国立市北一―一―二

電話 〇四二（五七七）五九九五



杏林大学外国語学部杏会

〒192-8508 東京都八王子市宮下町476番地

杏林大学公式ホームページURL <http://www.kyorin-u.ac.jp>